一般研究・個人研究

大谷大學圖書館藏宋金元版佛典目錄

研究員　藤島　建樹
研究補助員　梶浦　晉

はじめに

印刷技術の開發と普及が、社会變革を導き出す大きな要素であることは、ヨーロッパにおける活版印刷の發明が、宗教改革からルネッサンスという一大變革期をもたらしたことで證明されよう。それよりも古く、中國唐中期における木版印刷技術の開發も、東アジア世界に唐宋變革期と呼ばれる大きな變化を呼びおこした要素の一つといえよう。ことに五代十國の混亂期に熟成されたその技術は、宋帝國の統一とともに開花し全土に流布していった。儒教典籍の出版をはじめ史書・地誌類の印行から、膨大な巻數を誇る類書の編纂刊行など出版事業は活況を呈した。

佛教に關わる出版もその例に洩れるものではなかった。宋は統一後、間もなく、技術とテキストを持つ蜀（四川）に大藏經の版木の作成を命じ、都の汴（開封）で刊行した。いわゆる敕版大藏經である。これを契機として佛教關係の典籍の印刷刊行は次々に進展していった。このことが宋代佛教を特色づける知識人への佛教の浸透や、念佛結社の盛行に見られる庶民層への普及に大いに力をかしたことは否定できない事實であろう。

唐中期以降の木版印刷の發展にともない普及した佛典の開版や傳播に關する研究は、從來より行われてきたが、近年日本・中國・韓國等において新たな資料や研究が發表されるようになってきた。中國において新たにはじめられた『中華大藏經』の出版に際しては、宋・金・元・明諸版の大藏經はいうまでもなく、房山石經等による對校が行われ、それらの開版と傳播に關する研究もさかんになってきた。一方日本においても、增上寺をはじめとする諸寺の經藏の詳しい調査が行われている。また對馬において、從來知られる版式と異なる元版大藏經零本の華嚴經が發見されるなど、宋金元版佛典に

ついての新資料が、日中兩國で提供・整理されるなかで、新たな問題點も浮かんできている。さらに、これら佛典の開版と傳播に關する調査・研究は、その時代の佛教史・文化史のみならず、政治・經濟史研究にも有用な資料を提供するものとして注目されはじめている。

このような學界の情勢に對應し、當研究は「中國近世前半期における佛典の開版と傳播」を題目として、中國近世前期の佛教受容の實態をとらえることを最終目標とするが、その基礎作業として、まず本學圖書館所藏の宋金元版佛典の書誌調査、及び廣く一般の宋金元版佛典に關する資料・研究の収集整理を行うことを目的とした。

大谷大學圖書館には、善本の収集を主とする專門圖書館に比べて多いとは言えないが、少なからざる宋金元版佛典が藏されている。これらは本學圖書館藏書目錄等によってその存在は知られるところであるが、個々の經典の法量・版式・刊記・序跋等を網羅的に紹介したものは今までなかった。また近年、故神田喜一郎博士の舊藏書の寄贈をうけ、その中にも宋元版佛典の善本が多く含まれている。その一部は『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』（大谷大學圖書館編一九八八年）に掲載紹介されているが、その全てが公開されたわけではない。

今回はそれらすべてを網羅した館藏の宋金元版佛典の調査をすることができた。そこで今回調査をおえた佛典四二點の書誌事項を中心とした報告を行うこととする。これらは、その大半が大藏經の零本ではあるが、その題記・刊記や墨書等に興味深いものもある。また單刻のものでは傳本稀なものもあり、ここに紹介することは少なからず意義のあることと思われる。

これらの内若干は大學獨自に収集したものであるが、そのほとんどは寄贈によるものである。ここに謝意を込めて、繁雜ではあるが一々その紹介の後にその由を記した。本學にはこれ以外に、宋元版と關係の深い五山版や朝鮮版の單刻經典、またこれらとは別に宋思溪版大藏經・高麗版大藏經として一括で多數の經典を藏するが、これらの調査は今後の課題とした。

今回の調査に際しては、本學圖書館には多大の協力助言をいただいた。また對照調査のために貴重圖書の閲覧の機會を與えられた他の諸機關にもここに謝意をあらわす。

なお、この研究班は藤島が總轄し、大内囑託研究員・桂華研究補助員が補佐し、梶浦研究補助員が調査資料の整理・起稿を擔當した。

◎凡例

一　配列は、大藏經零本を先に、單刻經典を後とした。

一　大藏經零本は、大藏經の開版年代順にまとめ、各々千字文

順に配列した。

一　大藏經の版種については、刊記のない場合は版式等により推定し、〔東禪寺版〕のように示した。

一　單刻經典は、宋・金・元版毎にまとめ、各々原則として本學圖書館の『第三和漢書分類目錄』を參考に配列した。

一　書名・撰譯者名等は、原則として原本の表示によった。

一　法量は縦を先、横を後とし、單位は糎とした。

一　序跋については、該書の開版に直接係わるもののみ全文を引用した。

一　序跋・刊記・印記・奥書等の引用の改行は「／」の記號でもって示した。

一　破損・蟲損等で判讀不能の字は□で示した。

一　表題の次に示した記號及び數字（餘甲□□等）は、本學圖書館の整理記號と整理番號である。

◎大藏經零本の部

○福州東禪寺版大藏經

宋太祖が開寶四年（九七一）より雕造をはじめた敕版大藏經（蜀版）についで、福州閩縣の白馬山東禪等覺院において、近隣の僧俗の施財によって開版された大藏經。各巻首には通常三行か四行の刻造題記を有し、最も古い題記に元豐三年（一〇八〇）のものがある。崇寧二年（一一〇三）に開元錄所収の經典の雕造を終え、同年一一月二三日の敕で「崇寧萬壽大藏」の名を賜り、敕版に準ずるあつかいをうけることとなった。のち大觀七年（一一〇七）ころより、新譯經典等の續雕を行い、政和二年（一一一二）に全藏六三三九巻の完成をみた。のち南宋・乾道五年（一一六九）より淳熙三年（一一七六）にかけて、一四三巻の追雕・補刻が行われた。その版式は折本包帙表紙で一板一紙三〇乃至三六行一七字毎半折六行上下單邊を標準とし、經題下に千文字で函號を示す。また柱刻には函號・經名・板數・刻工名等を刻し、巻末には印造者を示す墨印が、また紙背にはまま「東禪／大藏」等の朱印が捺される。

今日中國ではまとまった遺例は確認されていないが、日本では、京都敎王護國寺・京都醍醐寺や和歌山金剛峯寺等につたわる（ただし一部開元寺版を混じえる。一般に日本現存の宋版大藏經は二種以上の版本の混合藏である。）

本學圖書館所藏の東禪寺版大藏經零本（一五部二六帖）は、全て三聖寺（京都市東山區にあった臨濟宗東福寺派の寺）舊藏のものである。この三聖寺舊藏宋版大藏經は、江戸時代に寺外に流出し、そのうち二二〇〇餘帖は現在愛知縣祖父江町本源寺に藏される。また

その零本は、全國各地の圖書館や収藏家に藏され、あるものは海外に流出している。この三聖寺舊藏宋版大藏經については「本源寺藏宋版一切經調査報告」（小島恵昭・織田顯信・藤谷一海『同朋大學佛教文化研究所紀要』創刊號　一九七九年）、「同訂正追記」（一九八〇年）、「宋版大藏經本源寺本（三聖寺舊藏）拾遺」（中村菊之進『同』一〇號　一九八八年）に詳しい。

この報告は短期日の間に整理・研究で多くの成果を擧げられたのであるが、ただ刻工名の記載の無いことが惜しまれる。刻工名は大藏經の問題のみならず書誌學一般の有益な情報となるので、今後發表されることを希望する。また同報告中の「廢寺『三聖寺』研究覺書」において、『參聖寺藏經』墨印と『參聖寺願主行蓮』の墨印が新發見といわれているが、前者については『大谷大學圖書館善本聚英』（大谷大學圖書館編　一九六一年）、後者については『石井積翠軒文庫善本書目』（川瀬一馬編　一九四二年）等の記載によって、はやくより知られるものである。また東福寺藏『唐本一切經目錄』について、春日禮智編「日本現存支那佛教史籍古鈔古刊本目錄」（『日華佛教研究會年報』第六年所収　一九四三年）によって三聖寺藏宋版一切經の総目錄であると推定されているが、同目錄に「三聖寺本」と明記されており、かつ『第四回（京都）大藏會陳列目錄』五〇に、「唐本一切經目錄　三册　東福寺藏／寫本　上巻表背附箋識語云／三聖寺藏經與高山寺藏經目錄同異／御注圓覺經一部　爽頌金剛經慈悲懺十巻／此三部高山寺有之當寺無之／箋首楞嚴經二十巻／此一部當寺有之高山寺無之　自餘悉同／巻中處々ニ三聖寺ノ印ヲ捺ス」とあるなど、三聖寺所藏の一切經の目錄であることは明らかである。このように從前の研究・紹介を充分利用されておられないことが惜しまれる。いま一つ、「無門」鼎型朱印と「東禪經局」無郭朱印の朱泥の色が酷似しており、この件について詳しい調査が必要かと思われる。

○開元寺版大藏經

東禪寺版に次いで福州閩縣の東芝山開元寺で開版された大藏經。各巻頭にある題記によると、政和二年（一一一二）より雕造が始められ、紹興二一年（一一五一）に全藏六一一七巻が完成した。「毗盧大藏」とも呼ばれる。東禪寺版と同じく、附近の僧俗の施財によって開版された。その版式等は東禪寺版とほぼ同じであるが、やや小型で、帖首や紙背には「開元經局」等の朱印がある。この大藏經も中國にはまとまった遺例はないが、日本では京都知恩院・神奈川金澤文庫・東京宮内庁書陵部藏本等が知られる（一部東禪寺版を含む）。本學藏本中にも金澤文庫舊藏のものがある。

○思溪版大藏經

北宋末期から南宋初期にかけて、浙江湖州歸安縣思溪圓覺禪院において開版された大藏經。福州の東禪・開元の二藏のように、近在の僧俗の施財によって雕造されたのとは異なり、南宋初期に密州觀察使王永從一族の喜捨のみによって開版されたものである。この大藏經は開版後約百年ののち王氏一族の没落とともに印經活動が停滞した。のち淳祐年間（一二四一～五二）に宋の宗族趙與籌の援助によって復興され、大藏經も補刻がおこなわれ、元の江南侵入による燒失まで印經活動も繼續された。この趙氏による復興の頃に圓覺禪院は法寶資福禪寺に寺格が昇り、圓覺禪院時代のものを前思溪版、資福禪寺時代のものを後思溪版という。目錄には『湖州思溪圓覺禪院新雕大藏經律論等目錄』と『安吉州思溪法寶資福禪寺大藏經目錄』の二種がある。

版式は一板一紙三〇行一七字上下單邊を標準とし、經題の下に千字文函號を刻す、ただ『楞伽阿跋多羅寶經』『大佛頂首楞嚴經』『大方廣佛華嚴經（八〇巻）』等のように一三～一五字詰の寫刻體のものもままある。各紙右端の糊代部分に函號・經題・板數・刻工名等を刻し、また各巻末に音釋を附すことがそれ以前の大藏經とは異なる。福州の二藏のように毎巻首には題記はないが、一部の經典に別摺で紹興二年（一一三二）の刻造題記を附す。刊記が少ないことなどにより、その開版の事情が詳しく判らない。日本にはかなり將來されたらしく、茨城最勝王寺・埼玉喜多院・東京增上寺・愛知岩屋寺・岐阜長瀧寺・奈良長谷寺・本學圖書館等に現存する。『大正藏』の對校本として用いられた宋本は、增上寺の思溪版である。

○普寧寺版大藏經

元・至元年間（一二六四～九三）に杭州餘杭の南山大普寧寺において白雲宗僧俗の協力で完成した大藏經。思溪版が元軍の侵入によって燒失したため、思溪版を覆刻するかたちで雕造がはじめられた。その行格等は思溪版とほぼ同じであるが、函號・板數・刻工名等は福州版のように行間に刻す。また各帖首尾經題下にある千字文の函號に帖數をあらたに加えた。巻末に刊記を附すものがあり開版の事情がうかがえる。東京增上寺・東京淺草寺・京都東福寺・滋賀園城寺等に藏される。この普寧寺版のなかには、高麗より元に發注し印造させたものがあり、園城寺や喜多院などのものには、高麗の人の發願文が附されている帖がしばしばみられる。本學藏本にもそれらの願文を附す零本がある。『大正藏』の對校本とした用いられた元本は增上寺の普寧寺版である。

○磧砂版大藏經

南宋の中期、平江磧砂延聖院において雕造がはじめられた大藏經。宋の宗室の趙安國が都勸緣大檀越となり多くの僧俗の施財によって開版された。また趙安國は一力で『大般若波羅蜜多經』六〇〇巻等を雕造している。この延聖院は寶祐六年（一二五八）火災にあい、刻造事業は中斷した。元になり有力な檀越の協力を得、延聖院は復興され大藏經の補刻追雕も行われた。今日傳わるものの大半は元代のものである。版式は普寧寺版とほぼ同じである。中國にも幾藏かが存しており、米國プリンストン大學ゲスト東方圖書館にも一藏ある。日本では、武田科學振興財團杏雨書屋に一藏あり、この他『大般若波羅蜜多經』のみの遺例がいくつかある。この磧砂版にも高麗の人の發願文を附すものがある。民國年間に、陝西省の開元・臥龍二寺の藏本が影印出版されている。

一　官字函音釋［大寶積經第六帙一十卷］一卷　　折本　一帖　餘甲一七九

宋［東禪寺版］大藏經零本　函號「官」

二六・三×一一・〇　全三紙

一紙　二六・三（二四・〇）×六七・二

三六行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊

柱刻　「．官字音（板數）」

「　廣東運使寺正曾噩捨　」

刻工　申　賜

印記　「三聖寺」單郭朱丸印

裏打補修改裝

本巻には題記が無く版種が不明であるが、三聖寺舊藏本の「官」字函の『大寶積經』が東禪寺版であることより（前記「本源寺藏宋版一切經調査報告」）、東禪寺版にふくめた。

二　慧上菩薩經　殘一巻　存巻下　　折本　一帖　餘甲一五五

西晉三藏竺法護　譯

宋東禪寺版大藏經零本　函號「推」

二七・五×一一・二　全一一紙

一紙　二七・五（二四・六）×六六・六

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

表紙　紺紙金泥寫題簽貼附「慧上菩薩經卷下　推」

柱刻　「　推　慧上卷下（板數）（刻工）　」

刻工　林付

「鄭寧印造」墨長方印造記

題記　元豐八年（一〇八五）五月　［巻首三行］
福州東禪等覺院住持傳法慧空大師沖眞等謹□□□□□／今上
皇帝太皇太后皇太后皇太妃祝延聖壽國泰民安／開鏤大藏經印
板一副總計五百函函各十卷元豐八年乙丑歲五月日謹題
印記　「三聖寺」雙郭朱丸印
「山田文昭遺書」朱長方印　「夢白盧／文庫」朱長方印
裏打補修後再び蟲損

本學元教授山田文昭氏舊藏。

三　佛華嚴入如來德智不思議境界經　殘一巻　存巻下
折本　一帖　餘甲一四三
隋天竺三藏法師闍那崛多　譯
宋東禪寺版大藏經零本　函號「伏」
二七・八×一一・一　全六紙［尾闕］
存　第一紙～第五紙・第七紙
一紙　二七・八（二四・八）×六七・〇
三六行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊
表紙　紺紙金泥寫題簽貼附「境界經巻下　伏」
柱刻　「伏　境界　下巻　（板數）」

題記　元豐八年（一〇八五）五月［巻首三行］
福州東禪等覺院住持傳法慧空大師沖眞等謹募衆緣恭爲／今上
皇帝太皇太后皇太后皇太妃祝延聖壽國泰民安／開鏤大藏經印
板一副揔計五百函函各十巻元豐八年乙丑歲五月日謹題
印記　「三聖寺」單郭朱丸印
裏打補修後再び蟲損

四　普曜經　殘一巻　存巻第一
折本　一帖　餘甲一四四
西晉三藏法師竺法護　譯
宋東禪寺版大藏經零本　函號「鳴」
二八・三×一一・三　全一三紙
一紙　二八・三（二五・〇）×六六・七
三六行一七字　毎半折六行　上下單邊
表紙　闕　後表紙　紺色表紙存
柱刻　「鳴　普曜一巻　（板數）（刻工）」
刻工　陳正
「林璋印造」雙郭墨長方印造記
題記　元豐八年（一〇八五）五月　［巻首四行］
福州東禪等覺院住持傳法慧空大師沖眞等謹募衆緣恭爲／今上

皇帝太皇太后皇太后皇太妃祝延聖壽國泰民安／開鏤大藏經印
板一副揔計五百函仍勸一萬家助緣有頌云東君布令思無／涯是
處園林盡發花無限馨香與和氣一時散入萬人家元豐八年乙丑歲
五月日題

印記　「東禪經局」無郭朱印
「東禪／大藏」單郭朱方印（紙背）
「參聖寺藏經」雙郭墨横長方印　「三聖寺」雙郭朱丸印

『大谷大學圖書館善本聚英』九「漢譯大藏經」に書影有り。

五　思益梵天問經　殘一卷　存卷第一

折本　一帖　餘甲一四五

姚秦三藏法師鳩摩羅什　譯

宋［東禪寺版］大藏經零本　函號「萬」
二八・〇×一一・〇　全一一紙［首尾闕］
存　第三紙後半一八行目～第一三紙三一行目
一紙　二八・〇（二四・五）×六七・五
三六行一七字　毎半折六行　上下單邊
柱刻　「　萬　思益一卷（板數）　」
印記　「三聖寺」雙郭朱丸印

六　勝思惟梵天所問經　殘一卷　存卷第三

折本　一帖　餘甲一九〇

元魏天竺沙門統大乘論師菩提流支　譯

宋東禪寺版大藏經零本　函號「萬」
二八・二×一一・〇　全一二紙
一紙　二八・二（二三・六）×六六・六
三六行一七字　毎半折六行　上下單邊
柱刻　「　萬　思惟三（板數）　」
題記　元豐八年（一〇八五）五月　［巻首四行］
□□東禪等覺院住持□□□空大師沖眞等謹募□□□□／今上
皇帝太皇太后皇太后皇太妃祝□聖壽國泰民□／開鏤大藏經印
板一副揔計五百函仍勸一萬家助緣有頌云東君布令思□／□□
處園林盡發花無限馨香與和氣一時散入萬人家元豐八年乙丑歲
五月日題
印記　「三聖寺」雙郭朱丸印　「參舟／文庫」雙郭朱方印
裏打補修後再び蟲損

參舟文庫（本學元教授舟橋水哉氏舊藏）。本學元學長住田智見氏より舟橋氏に贈られ、のち舟橋氏より本學に寄贈されたものである。（『三舟文庫圖書目錄』舟橋水哉編）

七　勝思惟梵天所問經　殘二巻　存巻第四、五

折本　二帖　餘甲一四六

元魏天竺沙門統大乗論師菩提流支　譯

宋［東禪寺版］大藏經零本　函號「萬」

二八・一×一一・五

一紙　二八・一（二四・〇）×六六・五

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

○巻第四　全一三紙［首闕］

存　第一紙第七行目以下

柱刻　「萬　思惟四巻（板數）」

印記　「三聖寺」雙郭朱丸印

裏打補修後再び蟲損　折り目逆

○巻第五　全六紙［首闕］

存　第九紙第二五行目以下

柱刻　「萬　思惟五巻（板數）」

印記　「三聖寺」雙郭朱丸印

裏打補修後再び蟲損　折り目逆

巻第四、五ともに巻首を闕き刊記がないが、先の巻第三と同じく三聖寺の藏印がありもと一俱のものと推定され、版式・字様も同一であることより、東禪寺版とした。「本源寺藏宋版一切經調査報告訂正追記」によると、名古屋市熱田區祐誓寺（住田智見氏住寺）には、『勝思益梵天問經』巻第四の帖首を存し、元豐八年東禪寺版の題記及び三聖寺朱印記があるという。東禪寺版の「萬」字には普通、『思益梵天問經』四巻四帖と『勝思惟梵天所問經』六巻六帖の計一〇巻一〇帖がある。おそらくはこの祐誓寺藏『勝思益梵天問經』巻第四は、『勝思惟梵天所問經』巻第四の誤りと思われ、この祐誓寺所藏の斷簡は、本學圖書館藏本の巻首部分であろう。

八　佛説不思議功德佛所護念經　殘一巻　存巻上

折本　一帖　餘甲一四八

隋闍那崛多　譯

宋［東禪寺版］大藏經零本　函號「信」

二七・七×一一・〇　全一〇紙［首尾闕］

一紙　二七・七（二四・六）×六七・〇

三六行字詰不等　毎半折六行　上下單邊

存　第二紙第一三行目～第一一紙

柱刻　「　信　護念卷上（板數）　」
印記　「三聖寺」雙郭朱丸印

九　五千五百佛名經　殘三卷　存卷第二、六、七
折本　三帖　餘甲一四七
隋闍那崛多　譯
宋東禪寺版大藏經零本　函號「信」
二七・六×一一・六
一紙　二七・六（二四・三）×六七・五
三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

○卷第二　全九紙［首尾闕］
存　第三紙～第一一紙
柱刻　「　信　二卷（板數）　」
印記　「三聖寺」單郭朱丸印

○卷第六　全一二紙
柱刻　「　信　六卷（板數）　」
題記　元豐八年（一〇八五）五月　［卷首三行］
福州東禪等覺院住持傳法慧空大師沖眞等謹募衆緣恭爲／今上
皇帝太皇太后皇太后皇太妃祝延聖壽國泰民安／開鏤大藏經印
板一副揔計五百函函各十卷元豐八年乙丑歲五月日謹題
印記　「東禪經局」無郭朱印　「三聖寺」雙郭朱丸印
「無門」鼎形朱印

○卷第七
表紙　紺紙金泥寫題簽貼附　「□名經七　信」
柱刻　「　信　七卷　（板數）　」
題記　元豐八年（一〇八五）五月　［卷首三行］
福州東禪等覺院住持傳法慧空大師沖眞等謹募衆緣恭爲／今上
皇帝太皇太后皇太后皇太妃祝延聖壽國泰民安／開鏤大藏經印
板一副揔計五百函函各十卷元豐八年乙丑歲五月日謹題
刻工　林鄉
印記　「東禪經局」無郭朱印　「三聖寺」雙郭朱丸印
「無門」鼎形朱印
第二紙　他と紙質や字體異なる。

本經卷は、『大谷大學圖書館第三和漢書分類目錄』三三五頁において、「五千五百佛名經　卷第六、卷第七　隋闍那崛多譯　東禪寺本宋版　折帖二冊　三聖寺朱丸印、鼎形朱印」と記されるが、

今回の調査及び園村義耕氏[本學圖書館嘱託(當時)]の調査によって、巻第二(第三紙～第一一紙)、巻第六、巻第七(第一、二紙)であることが判明した。また、館内未整理資料中より巻第七の第三紙～第一二紙があらたに確認された。

一〇　根本説一切有部百一羯磨　殘一巻　存巻第一〇

折本　一帖　餘甲一五八

唐三藏法師義淨　奉制譯

宋東禪寺版大藏經零本　函號「傅」

二七・二×一一・二　全一一紙

一紙　二七・二(二四・二)×六六・四

三六行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊

柱刻　「傅　十巻(板數)」

「十一帋尾」

刻工　林元

「葛紹印造」墨長方印造記(天地逆)

題記　元符二年(一〇九九)二月　[巻首三行]

福州東禪等覺院住持傳法沙門智賢謹募衆緣恭爲／今上皇帝祝延聖壽闔郡官僚同資祿位彫造／大藏經印板計五百餘函時元符二年二月日謹題

印記　「東禪經局」無郭朱印　「三聖寺」單郭朱丸印

「山田文昭遺書」朱長方印　「夢白盧／文庫」朱長方印

裏打補修後再び蟲損

本學元教授山田文昭氏舊藏。

一一　長阿含經　殘一巻　存巻第九

折本　一帖　餘甲一四九

姚秦三藏法師佛陀耶舍共竺佛念　譯

宋[東禪寺版]大藏經零本　函號「深」

二七・二×一一・一　全一二紙[首闕]

存　第一紙七行目以下

一紙　二七・二(二四・五)×六七・五

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

柱刻　「深　九巻(板數)(刻工)」

「深　九巻　七　廣東運使曾寺正捨」

「拾貳帋尾建方刀」

刻工　葉開　良　均　建方

印記　「三聖寺」雙郭朱丸印

第一二紙大破

名古屋市熱田區祐誓寺（住田智見氏住寺）現藏の『長阿含經』巻第九は、三聖寺舊藏にして巻首のみ存するという。（前記「本源寺藏宋版一切經調査報告」）これには、紹聖二年東禪寺版の題記があり三聖寺の朱印もあることより、本學所藏本の巻首部分と推定でき東禪寺版とした。

一二　過去現在因果經　殘一巻　存巻第四

宋三藏求那跋陀羅　譯

折本　一帖　餘甲二一五

宋東禪寺版大藏經零本　函號「辭」

二七・三×一一・四　全一九紙

一紙　二七・三（二四・六）×六七・四

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

題簽　「北宋因果經巻第四　有三聖寺印／香巖居士珎藏」

（神田香巖筆）

柱刻　「辭　六巻（板數）（刻工）」

「廣東運使寺正曾噩捨」

刻工　琮　厚　用　付召　昌　陳六

「林璋印造」墨長方印造記

題記　紹聖四年（一〇九七）二月　［巻首三行］

福州東禪等覺院住持傳法沙門智賢謹募衆緣恭爲／今上皇帝祝延聖壽闔郡官僚同資祿位雕造／大藏經印板計五百餘函時紹聖四年二月謹題

印記　「東禪經局」無郭朱印　「三聖寺」雙郭朱丸印

「神田／醋印」朱方印（陰文）

「神田醋／子醇氏」朱方印（陰文）

「佞古／書屋」朱方印

第一〇紙　五折三〇行

神田喜一郎氏寄贈圖書。

一三　大周刊定衆經目錄　殘四巻　存巻第一、七、一二、一四

唐佛受記寺沙門明佺等　撰

折本　四帖　餘甲一五〇

宋［東禪寺版］大藏經零本　函號「瑟」「吹」

二八・二×一一・二

一紙　二八・二（二五・〇）×六七・〇

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

〇巻第一　全七紙［首尾闕］

存　第一二紙七行目～第一八紙三〇行目
柱刻　「瑟　柒卷　（板數）　（刻工）　」
刻工　葉住

○巻第七　全一六紙［首尾闕］
存　第四紙二五行目～第二〇紙（尾題闕）
表紙　紺色後表紙存
柱刻　「吹　柒卷　（板數）　（刻工）　」
刻工　曹達
印記　「三聖寺」單郭朱丸印

○巻第一二　全一五紙［首尾闕］
存　第一紙二行目～第一五紙五行目
題記　元祐六年（一〇九一）正月　［巻首三行（一行目闕）］
今上皇帝太皇太后皇太后祝延聖壽國泰民安開鏤／大藏經印板
一副計五百餘函元祐六年正月日謹題
柱刻　「吹　拾貳卷　（板數）　（刻工）　」
刻工　呉定
印記　「三聖寺」單郭朱丸印

○巻第一四　全九紙［首尾闕］
存　第二紙～第一〇紙一二行目
柱刻　「吹　拾肆　（板數）　（刻工）　」
刻工　陳證

巻第一の柱刻には「柒」とあるが、巻第一に相當。

一四　一切經音義　殘三巻　存巻第一〇、二二、二五
折本　三帖　餘甲二一〇
唐大慈恩寺翻經沙門玄應　撰
宋東禪寺版大藏經零本　函號「納」「弁」
二七・五×一一・三
一紙　二七・五（二四・一）×六七・二
三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

○巻一〇　函號「納」　全一一紙［首闕］
存　第一紙一四行目～第一一紙
帙題簽　「玄應音義　宋槧福州本／巻第十」（内藤湖南筆）
表紙題簽　「玄應一切經音義　巻第十」（内藤湖南筆）
柱刻　「納　十巻　（板數）　」

「　十一帝尾」
刻工　「林璋印造」雙郭墨長方印造記
印記　「三聖寺」單郭朱丸印　「佞古／書屋」朱方印

○巻第二二　函號「弁」　全二〇紙［尾闕］
存　第一紙～第二〇紙一四行目
帙題簽　「玄應音義　宋槧福州本／巻第二十二」（内藤湖南筆）
表紙題簽　「玄應一切經音義　巻第二十二」（内藤湖南筆）
柱刻　「　弁　二十二巻　（板數）　」
題記　崇寧二年（一一〇三）一〇月　［巻首三行］
　福州東禪等覺院住持傳法沙門普明収印經板頭錢恭爲／今上皇
　帝祝延聖壽闔郡官僚同資祿位雕造／大藏經印板計五百餘函時
　崇寧二年十月日謹題
印記　「三聖寺」雙郭朱丸印　「佞古／書屋」朱方印
第一一紙　五折三〇行。

○巻第二五　函號「弁」　［首尾闕］　全二紙
存　第八・一〇紙
帙題簽　「玄應音義　宋槧福州本／殘巻」（内藤湖南筆）
表紙題簽　「玄應一切經音義　殘巻」（内藤湖南筆）
柱刻　「　弁　二十五巻　（板數）　」
印記　「三聖寺」雙郭朱丸印　「佞古／書屋」朱方印

神田喜一郎氏寄贈圖書。内藤湖南舊藏（春日禮智編「日本現存支那佛教史籍古鈔古刊本目錄」）。内藤湖南はこれ以外にも、三聖寺舊藏の宋版大藏經零本の『一切經音義』を所藏していた。（武田科學振興財團杏雨書屋現藏『同書』巻第四、五。）

一五　大慈恩寺三藏法師傳　殘四巻　存巻第二、六、七、八
　折本　四帖　餘甲二二〇
　沙門惠立本　釋彦悰箋
宋東禪寺版大藏經零本　函號「右」
二七・四×一一・四
一紙　二七・四（二四・六）×六七・八
　三六行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊

○巻第二　全一七紙
柱刻　「　右　二巻　（板數）　」
刻工　文　陳英
　「楊震印造」墨長方印造記

題記　崇寧二年（一一〇三）一一月　［巻首三行］
福州東禪等覺院傳法沙門普明収印經板頭錢恭爲／今上皇帝祝
延聖壽闔郡官僚同資祿位雕造／大藏經印板計五百餘函時崇寧
二年十一月日謹題
印記　「三聖寺」單郭朱丸印
「蘇峰／過眼」朱方印　「佞古／書屋」朱方印

○巻第六　全八紙［首闕］
存　第四紙以下
柱刻　「右　六巻　（板數）　（刻工）」
刻工　鄭永　明刀
印記　「三聖寺」單郭朱丸印
「蘇峰／過眼」朱方印　「佞古／書屋」朱方印

○巻第七　全一一紙［首闕］
存　第二紙以下
柱刻　「右　七巻　（板數）　（刻工）」
刻工　文　太
印記　「三聖寺」單郭朱丸印　「佞古／書屋」朱方印

○巻第八　全一二紙［尾闕］
存　第一紙～第一二紙
柱刻　「右　八巻　（板數）　（刻工）」
刻工　文
印記　「三聖寺」單郭朱丸印
「蘇峰／過眼」朱方印　「佞古／書屋」朱方印
題記　崇寧二年（一一〇三）一一月　［巻首三行］
福州東禪等覺院傳法沙門普明収印經板頭錢恭爲／今上皇帝祝
延聖壽闔郡官僚同資祿位雕造／大藏經印板計五百餘函時崇寧
二年十一月日謹題
各巻首に朱印記の削りあとあり

神田喜一郎氏寄贈。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』一五。

一八　『大慈恩寺三藏法師傳』は開元寺版。東禪寺版と開元寺版の比較の好資料となる。

一六　佛説佛名經　殘一巻　存巻第一二
折本　一帖　餘甲一五一
元魏三藏法師菩提流支　譯
宋開元寺版大藏經零本　函號「長」

二九・五×一一・一　全一八紙　折本　二帖　餘丙　八一

一紙　二九・五（二二・八）×六五・五

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

表紙　紺色後表紙　存

右下墨書「佛名一二」

柱刻　「長　一二卷　（板數）　（刻工）」

刻工　呉浦　鄭習　上官瑀　王立　陳通　王康

陳立　林鄉　程亨　高選　陳演　林添

林介　陳堯　丁宥　王仲　王和

「德印造」墨長方印造記

題記　宣和七年（一一二五）七月　［巻首四行］

福州管内衆縁就開元禪寺雕造毗盧大藏經印板一副計五百餘函

恭爲／今上皇帝祝延聖壽内外臣僚同資祿位都會首顔徽曾絡陶

穀張嗣林桷陳芳林昭／劉居中蔡康國陳詢蔡俊臣劉漸陳靖謝忠

前管句沙門本悟見管句沙門僧仟／證會前住持本明見住持淨慧

大師法超當山三殿大王大聖泗洲時宣和七年七月日謹題

『大谷大學圖書館善本聚英』九　漢譯大藏經に書影有り。

一七　［三千］佛名經　殘二巻　存巻上、下

宋開元寺版大藏經零本　函號「長」

二六・八×一一・〇

一紙　二六・八（二三・一）×六四・五

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

○過去莊嚴劫千佛名經　（亦名集諸佛大功德山）

失譯

全一五紙

題記　宣和七年（一一二五）七月　［巻首四行］

福州管内衆縁就開元禪寺雕造毗盧大藏經印板一副計五百餘函

恭爲／今上皇帝祝延聖壽内外臣僚同資祿位都會首顔徽曾絡陶

穀張嗣林桷陳芳林昭／劉居中蔡康國陳詢蔡俊臣劉漸陳靖謝忠

前管句沙門本悟見管句沙門僧仟／證會前住持本明見住持淨慧

大師法超當山三殿大王大聖泗洲宣和七年七月日謹題

柱刻　「長　莊嚴佛名巻上　（板數）　（刻工）」

刻工　王□　王確　陳賜　丁宥　陳晶　林宋　郭受　蔡有　王和

丘甸　葉開　林立　周逐　李完

「陳實印造」墨長方印造記

印記　「開元／經局」朱方印

「岡本藏書」朱長方印　「閻魔庵／圖書部」朱長方印

○未来星宿劫千佛名經

失譯

全一六紙

表紙　紺紙金泥寫題簽帖附　「星宿千佛名卷下　長」

柱刻　「　長　星宿佛名卷下　（板數）　（刻工）　」

刻工　卓免　鄭習　陳黙　呉浦　蔡宗　曹章　林添　陳□　陳完

陳賜　官理　葉閏　梁吉　□確　王□

「陳實印造」墨長方印造記

題記　宣和七年（一一二五）七月　［巻首四行］

福州管内衆縁就開元禪寺雕造毗盧大藏經印板一副計五百餘函

恭爲／今上皇帝祝延聖壽内外臣僚同資祿位都會首顔徽曾䜣陶

穀張嗣林桷陳芳林昭／劉居中蔡康國陳詢蔡俊臣劉漸陳靖謝忠

前管句沙門本悟見管句沙門僧仟／證會前住持本明見住持淨慧

大師法超當山三殿大王大聖泗洲宣和七年七月日謹題

印記　「開元／經局」朱方印

「岡本藏書」朱長方印　「閻魔庵／圖書部」朱長方印

裏打補修改裝

一八　大慈恩寺三藏法師傳　殘四巻　存巻第二、六、七、九

折本　四帖　餘甲二二一

沙門恵立本　釋彦悰箋

宋開元寺版大藏經零本　函號「右」

二七・五×一一・三

一紙　二七・五（二四・二）×六七・三

三六行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊

紺色包帙改裝表紙　裏打補修

○巻第二　全一一紙［尾闕］

存　第一紙～第一一紙

柱刻　「　右　二巻　（板數）　（刻工）　」

刻工　張昱　楊宗　呉才　林文　陳孚　李傑　石老

題記　紹興一八年（一一四八）閏八月　［巻首三行］

福州開元禪寺住寺傳法賜紫慧通大師了一謹募衆縁恭爲／今上

皇帝祝延聖壽文武官僚資崇祿位圓成雕造／毗盧大藏經一副皆

紹興戊辰閏八月日謹題

印記　「炳卿珍藏舊／槧古鈔之記」朱長方印

「佞古／書屋」朱方印

○巻第六　全一一紙

柱刻　「　右　六巻　（板數）　（刻工）　」

刻工　楊宋　付中　梁吉　楊中　林泗　郭伸　王吉　王保　付言　鄧勾

題記　紹興一八年（一一四八）閏八月　［巻首三行］

福州開元禪寺住寺傳法賜紫慧通大師了一謹募衆緣恭爲／今上皇帝祝延聖壽文武官僚資崇祿位圓成雕造／毗盧大藏經一副皆紹興戊辰閏八月日謹題

紹興二〇年（一一五〇）下元　［巻末七行］

日智覩靖康建炎以來□遊淮浙間見衆生罹兵刀諸大苦厄遂／生哀閔令解脱乃収遺骸焚瘞薦導所至州縣名山飯僧百萬／衆設幽冥水陸二百會印施彌阿觀音像二萬濟貧設獄募衆／誦經三百萬藏結華嚴場會一百萬□漸次遊行以至福州開元大藏／經未圓因施長財開茲經一巻集茲妙善用薦法界一切幽瑰滞魄反有／情無情俱登覺岸次願我此身成道後化身無數百俱肱随類攝化／度衆生同入汪洋薩婆海紹興庚午歲下元宣州廣敎慧海大師日智題

印記　「炳卿珍藏舊／槧古鈔之記」朱長方印

「佞古／書屋」朱方印

○巻第七　全一二紙

柱刻　「　右　七巻　（板數）　（刻工）　」

刻工　史得　郭仲　陳付　王大　陳達　鄭昌　林森　付中　立與　洙付

題記　紹興一八年（一一四八）閏八月　［巻首三行］

福州開元禪寺住寺傳法賜紫慧通大師了一謹募衆緣恭爲／今上皇帝祝延聖壽文武官僚資崇祿位圓成雕造／毗盧大藏經一副皆紹興戊辰閏八月日謹題

［巻末二行］

府城居住奉佛弟子連淨和謹施淨財開右字經板壹／巻廣流聖敎爲報四恩普資三有法界含生同圓種智

印記　「炳卿珍藏舊／槧古鈔之記」朱長方印

「佞古／書屋」朱方印

○巻第九

全一七紙

柱刻　「　右　九巻　（板數）　（刻工）　」

刻工　王老　王才　荆偉　陳文　王與　林志　付及　鄧勾　王青　甘正　洙生　洙仁　王詢

題記　紹興一八年（一一四八）閏八月　［巻首三行］

福州開元禪寺住寺傳法賜紫慧通大師了一謹募衆緣恭爲／今上

皇帝祝延聖壽文武官僚資崇祿位圓成雕造／毗盧大藏經一副皆

紹興戊辰閏八月日謹題

［巻末二行］

淨業保安禪寺住持比丘尼道興謹施長財雕大藏内右字□／板一

巻廣流聖教爲法四恩普資三友法界含生道圓種智

印記　「炳卿珍藏舊／槧古鈔之記」朱長方印

「佞古／書屋」朱方印

第九紙　三〇行

神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』一五。

一五　『大慈恩寺三藏法師傳』は東禪寺版。

一九　法苑珠林　殘一巻　存巻第五一　折本　一帖　餘甲二一一

大唐上郡西明寺沙門釋道世字玄惲　撰

宋開元寺版大藏經零本　函號「書」

二八・五×一〇・九　全一二紙

一紙　二八・五（二二・八）×六五・三

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

箱書　「福州開元寺板藏經零本／北宋宣和六年刊法苑珠林巻第五

十一　一帖／首尾有金澤文庫印」　（神田香巖筆）

表紙　紺色包帙改裝表紙　裏打補修

柱刻　「　書　五十一巻　（板數）　（刻工）　」

刻工　張保　孫永　孫又　王賢　華茂　林立　呉彬　葉□　高元

林介

印記　「金澤文庫」雙郭朱長方印（岡谷繁實模印か）

「香巖／祕玩」朱長方印　「神田／醰印」朱方印（陰文）

「神田醰／子醰氏」朱方印（陰文）

「神田家藏」朱長方印　「佞古／書屋」朱方印

題記　宣和六年（一一二四）八月　［巻首四行］

福州管内衆緣就開元禪寺雕造毗盧大藏經印板一副計五百餘函

恭爲／今上皇帝祝延聖壽内外臣僚同資祿位都會首顏徽曾結陶

穀張嗣林桷陳芳林昭／劉居中蔡康國陳詢蔡俊臣劉漸陳靖謝忠

前管句沙門本悟見管句沙門僧仟／證會前住持本明見住持宗鑑

大師元忠當山三殿大王大聖泗洲時宣和六年八月日謹題

書き入れ有り。

神田喜一郎氏寄贈圖書。

二〇　宗鏡錄　殘一卷　存卷第九九　　折本　一帖　餘丙一七五

慧日永明寺主智覺禪師延壽　集

宋［開元寺版］大藏經零本　函號「茂」

二七・八×一一・三　全一二紙

一紙　二七・八（二四・五）×六六・五

三六行一七字　毎半折六行　上下單邊

表紙　紺色包帙改裝表紙　裏打補修

柱刻　「茂　九十九卷　（板數）　（刻工）」

「一　王保」

「十二帝　孫昂」

刻工　王保　先　文　王士　汶達　鄭正　孫昂

印記　「參舟／文庫」朱方印

「豐橋市蓮／泉寺舟橋／水哉藏印」朱方印

第一折は三行目より始まる。

參舟文庫（本學元教授舟橋水哉氏舊藏）。印記等はないが、『金澤文庫古書目錄』に「『宗鏡錄』卷九十九　愛知・舟橋水哉氏藏」とあり、金澤文庫舊藏か。

二一　中阿含經　殘一卷　存卷第二二　　折本　一帖　餘丙一九四

東晉罽賓三藏瞿曇僧伽提婆　譯

宋［思溪版］大藏經零本　函號「興」

三〇・〇×一一・三　全一四紙［首闕］

存　第三紙～第一六紙

一紙　三〇・〇（二五・一）×五六・二

三〇行一七字　毎半折六行　上下單邊

柱刻　「興　中阿含經二十二　（板數）　（刻工）」

刻工　楊通　葉印　李羽　李胡　陳□　黃元　李茂　王迪

音釋　七行［卷末］

印記　「藏司印記□」朱長方印（紙背）

「全藏經」墨長方印（紙背）　「妙正寺」朱長方印

墨書　［卷末二行］

奉渡唐本一切經内

建長七年乙卯十一月九日於鹿島社遂供養常州笠間前長門守從五位上行藤原朝臣時朝

妙正寺文庫（小栗栖香頂氏遺書）。常陸國笠間に住した鎌倉幕府の御家人で、鹽谷朝業（信生）の次子で、宇都宮頼綱（蓮生）

の甥である、笠間時朝（一二〇四～一二六五）が、建長七年（一二五五）に常陸國鹿島社で供養した一切經の零本である。時朝は、歌人として名があり、父や伯父と異なり出家はしなかったが、佛教とのかかわりも深く佛像の造立を盛んに行い、奈良當麻寺にある將軍頼經寄進の當麻曼陀羅の厨子扉にも、他の結縁者とともにその名がしるされている。この鹿島社舊藏の宋版大藏經は江戸時代後期にはすでに散佚していたようで、今日諸家・諸文庫にその零本が藏されている。本學圖書館には本書の他二三『雜阿含經』巻第六にもこの奥書がある。

二二　增壹阿含經　殘一巻　存巻第四〇

折本　一帖　餘丙一六一

符秦建元年三藏曇摩難提　譯

宋［思溪版］大藏經零本　　函號「如」

三〇・三×一一・四　　全一三紙

一紙　三〇・三（二四・七）×五六・五

三〇行一七字　毎半折六行　上下單邊

柱刻　「　如　增壹阿含經巻第四十　（板數）　（刻工）　」

刻工　陳杲

音釋　五行［巻末］

印記　「法寶藏司印」朱長方印（紙背）

「刻經處」朱長方印（紙背）

他二種朱印あるも印文不鮮明にて判讀不能

蓼舟文庫（本學元教授舟橋水哉氏舊藏）。

二三　雜阿含經　殘一巻　存巻第六

折本　一帖　餘甲二一八

失譯附呉魏二録

宋［思溪版］大藏經零本　　函號「思」

三〇・〇×一一・四　　全二〇紙

一紙　三〇・〇（二四・六）×五七・〇

三〇行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊

箱書　「鹿島社一切經之内／宋槧雜阿含經巻第六　一帖／香巖居士珎玩」　（神田香巖筆）

表紙　褐色

柱刻　「　思　雜阿含經　六　（板數）　（刻工）　」

刻工　施宏　洪吉　洪先　王睿　芦典　馬珎　□印　王昌　葉由

音釋　一〇行［巻末］

印記　「全藏經」墨長方印（紙背）

「香巖／祕玩」朱長方印　「神田／醄印」朱方印（陰文）
「佞古／書屋」朱方印
墨書　［巻末二行］
奉渡唐本一切經内
建長七年乙卯十一月九日於鹿島社遂供養常州
笠間前長門守從五位
上行藤原朝臣時朝

神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』一六。笠間時朝が鹿島社で供養した一切經の零本。帙には神田香巖の筆で、時朝の一切經供養の際の歌や彼の事蹟について、『新和歌集』『吾妻鑑』『鶴岡八幡宮寺社務職次第』等の記事の抜粋が記される。

二一　『中阿含經』巻第二二にも同文の墨書あり。

二四　紹興重雕大藏音　三巻　折本　三帖　餘甲二一七

宋精嚴寺沙門處觀　撰

宋［思溪版］大藏經零本　函號「英」
三〇・四×一一・五
一紙　三〇・四（二四・〇）×五六・八
二五行一六字乃至一七字　小字雙行　上下單邊
巻上　全二二紙　巻中　全二〇紙　巻下　全二一紙
表紙　黄色　錦貼り帙入り　木箱入り
柱刻　「英　音上　（板數）」
刻工　貼り合わせ部糊附のため判讀不能
序　［巻首　三〇行］
元祐九年（一〇九四）四月　宣德郎新差在京木炭場柳豫
「紹興重雕大藏音序」
印記　「神田／醄印」朱方印（陰文）　「香巖／祕玩」朱長方印
「神田醄／子醇氏」朱方印（陰文）
「佞古／書屋」朱方印
紙背に朱印あれども不鮮明にて判讀不能
墨書　小口「大藏音上（中、下）」

神田喜一郎氏寄贈圖書。

二五　法苑珠林　殘一巻　存巻第九四　折本　一帖　餘丙　二五

大唐上郡西明寺沙門釋道世字玄惲　撰

宋［思溪版］大藏經零本　函號「羅」
二八・九×一一・四　全一八紙　［第一四紙補寫］

一紙　二八・九（二五・〇）×五六・〇
　三〇行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊
表紙　黄色
題簽　「法苑珠林　第九十四　四百九十　／　羅四」
柱刻　「　羅　法苑珠林卷九十四　（板數）　（刻工）　」
刻工　貼り合わせ部糊附のため判讀不能
音釋　［巻末四行］
木記　［巻首に別紙を貼附］
　元祿九年丙子二月日重修／皇圖鞏固帝衙遐昌／佛日增輝瀍輪
　常轉／山城州天安寺法金剛院置

帖首に附されている元祿九年（一六九六）の修補木記によって、京都天安寺卽ち法金剛院舊藏の宋思溪版大藏經の零本と判明する。（寫眞①）法金剛院舊藏の大藏經は、その大半（四六四七帖）が、今日北京圖書館に藏されている。（『中國版刻圖錄』圖版六七）また臺北故宮博物院所藏の『安吉州思溪法寶資福禪寺大藏經目錄』二卷二帖も、もと一俱のものであることが判明している。（阿部隆一著『增訂中國訪書志』北平圖書館原藏宋金元版解題）これらはともに、明治期に來日した淸・楊守敬によって中國に逆輸入されたものである。ちなみに臺北故宮博物院藏本には、以下の題記が記されている。「宋安吉州資福寺大藏經全部闕六百餘卷間／有鈔補一拠宋摺本舊藏日本山城國天安寺／余在日本有書估爲言欲求售之狀適黎星使／方購佛書卽嘱余與議之価三千元以七百元作定／金立約期三月附書及逾期而書不至星使不／能待以千元購定日本翻明本久之書至星使以過期不受欲／索還定金書估不肯退書難以口舌爭星使／有不欲以購書事起公牘嘱余受之而先支薪俸以／償余以此書宋刻中土久無傳本明刊南北藏本兵燹／後亦十不存一况明本魯魚豕亥不可枚擧得此以訂訛／鉏謬不可謂非鴻寶廼忍痛受之闕卷非無別本鈔／補以費繁而止且此書之可貴以宋刻故也書至六七千卷時／至六七百年安能保其毫無殘闕此在眞知篤好者固不必／狥俗人之見以不全爲恨光緒癸未二月宜都楊守敬記」

二六　大方廣菩薩藏文殊師利根本儀軌經　殘一卷　存卷第五
　折本　一帖　餘甲一八〇
　西天譯經三藏朝散大夫試鴻臚少卿明教大師天息災　奉詔譯
宋［思溪版］大藏經零本　函號「戸」
二八・六×一一・五　全九紙［尾闕］
存　第一紙～第九紙
表紙　布貼厚表紙　全面裏打補修濟
一紙　二八・六（二二・三）×五六・一

三〇行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊
柱刻　「　戸　文殊根本儀軌經卷五　（板數）　（刻工）　」
刻工　貼り合わせ部糊附のため判讀不能

二七　大般若波羅蜜多經　殘一卷　存卷第四七二
折本　一帖　餘甲一五三
三藏法師玄奘　奉詔譯
元普寧寺版大藏經零本　函號「崗」
三〇・一×一一・六　全一六紙
一紙　三〇・一（二四・五）×五六・〇
三〇行一七字　毎半折六行　上下單邊
表紙　褐色　墨書題簽（貼附）
「大般若波羅蜜多經卷四百七十二
第二百五十八」
表紙裏貼及び裏打ちに摺遺を用いる
柱刻　「　崗　二　（板數）　（刻工）　」
刻工　文　茂　羊
刊記　至元一六年（一二七九）二月　［巻末六行］
大藏經局伏承湖州路長興縣至德鄉界居奉／佛弟子潘孟堅施財
刊造／大藏般若尊經板貳卷所集功德追薦／考潘百三將仕妣王
氏十娘子士第潘觀祐秀才俱乘／妙和超登蓮界以冀家居吉慶長
幼乂寧吉祥駢集者／至元十六年二月日南山普寧寺住山釋道安
題
『大谷大學圖書館善本聚英』九「漢譯大藏經」に書影あり。

二八　元［普寧寺版］版大藏經零本三種
折本　三帖　餘丙一八四
三〇・〇×一一・五
一紙　三〇・〇（二四・三）×五六・三
三〇行一七字　毎半折六行　上下單邊
○波羅提木叉僧祇戒本［尾題　摩訶僧祇律大比丘戒本］
東晉天竺三藏佛陀跋陀羅　譯
函號　「外一」
全七紙［首闕］
存　第一五紙以下　別刷刊記　一紙
柱刻　「　外一　（板數）　（刻工）　」
刻工　徐　良
音釋　十行　［巻末］

刊記　至正年間　［巻末別摺二一行］

奉三寶弟子高麗國通直郎典校寺丞李允升／同妻咸安郡夫人尹氏／謹發誠心捨財印成／大藏尊經一藏敬安于鄕邑古阜郡萬日寺看／誦流通普利無窮所集洪因端爲祝延／皇帝萬萬歲／皇后齊年／太子千秋／國王千年文虎協朝野寧／佛日增輝法輪常轉四恩普報三有齊資／次冀追薦先考通直郎李祚外考奉常大夫／尹傾先妣光山郡夫人金氏洞州郡夫人金氏各離／苦趣俱成妙果皆得樂方兼及己身合門眷屬／助善檀那同增福智之願法界有情同霑利樂者／至正年月日幹善比丘法琪／同願比丘玄珠祖行承湛覺胡／同願善人奉翊大夫王承慶／奉常大夫許繕／檢校軍器監孫烈／同願本寺住持比丘禪彥／同願大禪師乃云

○根本説一切有部苾芻尼戒經

三藏法師義淨奉詔　譯

函號　「外六」

全四紙　［尾闕］

存　第一紙～第四紙

柱刻　「外六　（板數）　（刻工）」

刻工　蔡刀

○五分戒本　（亦云彌沙塞戒本）

宋罽賓三藏佛陀什等　譯

函號　「外七」

全四紙　［首尾闕］

存　第七紙～第一〇紙

柱刻　「外七　（板數）　（刻工）」

刻工　林

本學元教授諏訪義讓氏寄贈圖書。高麗國通直郎典校寺丞李允升が財を捨して、元の杭州大普寧寺に發注し、鄕里古阜郡萬日寺（全羅道）に施入した大藏經の零本。當時、朝鮮半島より中國に大藏經を求めた例はいくつかあり、今日そのいくつかが、日本に傳えられている。二九　『金剛薩埵説頻那夜迦天成就儀軌經』巻第一にも、本書と同文の願文が附されている。また園城寺所藏の元普寧寺版大藏經に、この李允升の願文が附されていることが知られている。

二九　金剛薩埵説頻那夜迦天成就儀軌經　殘一巻　存巻第一

折本　一帖　餘甲二二六

西天譯經三藏朝散大夫試鴻卿傳法大師臣法賢奉　詔譯

元［普寧寺版］大藏經零本　函號「冠一」
三〇・〇×一一・二　全一二紙
一紙　三〇・〇（二四・五）×五六・〇
三〇行一七字　每半折六行　小字雙行　上下單邊
柱刻　「冠一（板數）（刻工）」
刻工　崇仁　嚴崇仁
刊記　［卷末別摺二一行］
奉三寶弟子高麗國通直郎典校寺丞李允升／同妻咸安郡夫人尹氏／謹發誠心捨財印成／大藏尊經一藏敬安于鄉邑古阜郡萬日寺看／誦流通普利無窮所集洪因端爲祝延／皇帝萬萬歲／皇后齊年／太子千秋／國王千年文虎協朝野寧／佛日增輝法輪常轉四恩普報三有齊資／次冀追薦先考通直郎李祚外考奉常大夫／尹傾先妣光山郡夫人金氏洞州郡夫人金氏各離／苦趣俱成妙果皆得樂方兼及己身合門眷屬／助善檀那同增福智之願法界有情同霑利樂者／至正年月日幹善比丘法琪／同願比丘玄珠祖行承湛覺胡／同願善人奉翊大夫王承慶／奉常大夫許繕／檢校軍器監孫烈／同願本寺住持比丘禪彥／同願大禪師乃云
印記　「神田醋／子醋氏」朱方印（陰文）　「香巖三十／年精力所／聚經籍金／石書畫記」朱方印（陰文）
「香巖／珍藏」朱方印　「佞古／書屋」朱方印
神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』二四。
二八　『波羅提木叉僧祇戒本』に同文の刊有り。

三〇　正法念處經　卷第一　折本　一帖　餘丙一六六
元魏婆羅門瞿曇般若流支　譯
元［磧砂版］大藏經零本　函號「篤一」
二九・一×一一・三　全一六紙
一紙　二九・一（二四・〇）×五五・五
三〇行一七字　每半折六行　上下單邊
表紙　茶褐色
墨書題簽　「正法念處經　篤一」
序　四二行　「正法念處經序」
柱刻　「篤一（板數）」
印記　「清音寺」雙郭朱長方印
音釋　八行　［卷末］
木記　［別刷りで蓮臺木記］
高麗國施主／奉訓大夫前判典醫寺金祿／南陽郡夫人朴氏施財印造大藏尊經一藏捨／入子菩寺流通供養／棟梁戒丘宗出升換松栢／同願道人清印／平江府黃土塔橋陸家印造

參舟文庫（本學元教授舟橋水哉氏舊藏）。常陸國清音寺（茨城縣常北町）舊藏の大藏經の零本。現在散佚し諸家にその零本が分藏されている。巻末に附されている別摺施入木記によって、高麗國の朴氏によって、元から輸入されたものであることが判明する。清音寺には高麗版大藏經もあったようで、これもまた今日散佚し諸家に分藏されている。（寫眞②）

三一　戒因緣經　殘一巻　存巻第一

姚秦三藏竺佛念　譯

折本　一帖　餘甲二二三

元磧砂版大藏經零本　函號「姑一」

二九・一×一一・二　全一三紙

一紙　二九・一（二四・三）×五五・九

三〇行一七字　小字雙行　毎半折六行　上下單邊

柱刻　「姑一　（板數）」

刻工　志

序　「鼻奈耶序」　巻首一四行

音釋　一二行　［巻末］

刊記　大德一〇年（一三〇六）　［巻末四行］

平江路磧砂延聖寺比丘志垓伏覩本寺刊雕大藏經板發心施中統／鈔柒拾定助刊經文所集功德上酬／佛祖深恩下報生成之德仍伸莊嚴／先師肅堂監寺穆公增崇品者大德十年七月日意願

墨書　［尾題下］

「施入法華寺時顯」

印記　「香巖／祕玩」朱長方印　「神田／醔印」朱方印（陰文）

「神田醔／子醰氏」朱方印（陰文）

「佞古／書屋」朱方印

神田喜一郎氏寄贈圖書。秋田城介時顯が元亨四年（一九八一）に、父母の菩提を弔うために元から輸入し、奈良の法華寺に施入した一切經の零本。この一切經は現在そのほとんどが寺外に流出し、法華寺には『大般若經』三三〇帖他少しを殘すのみで、流出した一部が各地の圖書館や収藏家に藏されている。法華寺現存の『大般若經』には至治元年（一三二一）の補刻刊記があり、この時顯施入本が至治元年から元亨四年までに印出されたものであることが判明する。本學には本書のほか、三二　『阿毘曇毘婆沙論』巻第七三にも、時顯の施入を示す墨書がある。法華寺藏『佛説佛名經』巻第一二、大東急記念文庫藏『成實論』巻第二〇、唐招提寺藏『攝大乘論無性菩薩釋』巻第一〇斷簡等には、施入の事情を示す長文の奥書がある。

三二　阿毘曇毘婆沙論　殘一卷　存卷第七三

折本　一帖　餘丙一六七

迦旃延子　造　北涼沙門浮陀跋摩共道泰　譯

元［磧砂版］大藏經零本　函號「隱一」

二九・四×一一・三　全一四紙

一紙　二九・四（二三・五）×五五・九

三〇行一七字　毎半折六行　上下單邊

表紙　茶褐色

柱刻　「　隱三　（板數）　」

「　隱三　一　（刻工）　」　［第一紙］

刻工　蔣富

音釋　［卷末二行］

刊記　第一四紙　［經文についで小字で以下二行の刊記］

本寺僧志臨捨田歳収花利於己酉年刊／隱字第三卷流通報佛深恩者

墨書　［卷末］

「施入法華寺時顯」

蓼舟文庫（本學元教授舟橋水哉氏舊藏）。三一　『戒因緣經』巻第一にも同文の墨書あり。

◎單刻經典の部

三三　注仁王護國般若經　殘一卷　存卷第一并序

折本　一帖　餘甲二一六

大宋國傳賢首祖教沙門淨源　撰集

南宋版

三〇・九×一一・六　全二二紙

一紙　三〇・八（二三・九）×五六・六

二〇行一五字　小字雙行二〇字　毎半折四行　上下單邊

有界

帙　題簽

「宋槧大字本注仁王護國般若經卷第一　高山寺所傳／香巖居士珍藏」（神田香巖筆）

表紙　題簽

「宋槧大字本注仁王護國般若經卷第一」（神田香巖筆）

はがれた古い題簽一枚添附　「注仁王經第一」

柱刻　「　（註）仁王經一　（板數）　」

闕畫　私、弘、玄

序　［卷首二四行］

印記　「高山寺」單郭朱長方印　「香巖／祕玩」朱長方印

「神田醇／子醇氏」朱方印（陰文）　「香巖三十／

年精力所／聚經籍金／石書畫記」朱方印（陰文）
「佞古／書屋」朱方印
刊記　［巻末五行　尾闕］
但し柱刻に「　金記六　二十五　」とあり、他經の刊記が紛れたものか。
尚簡而鈎索深隱固亦難矣予雖不敏忝久親講授／遂纂集舊聞繫諸巻末亦異覽者豈貽續貂之譏／云時／近因兵火焚毀版籍慮斯文遺墜將／來可悲募緣幷將衣鉢施利重鏤其
裏打補修改装
神田喜一郎氏寄贈圖書。松本文三郎舊藏に同經巻第四有り。（石崎達二編　『佛教徵古館紀要』第貳册　佛教關係古寫古版目錄』）『高山寺聖教目錄』の第一七甲にある「註仁王經疏　四巻」に該當するか。（寫眞③）

三四　（科註）大方廣佛華嚴經　殘三巻
存巻第七一、七二、七三
折本　一帖　餘甲二一一二
南宋版
于闐三藏沙門實叉難陀　譯
三〇・一×一一・二　全一七紙［尾闕］
存　第一紙～第一七紙
一紙　三〇・〇×五五・六
五〇行二三字　毎半折一〇行　下界線
帙　題簽
「宋版科注華嚴經」
表紙　題簽
「宋槧科註華嚴經零本　大正五年歳在丙辰仲夏／香巖居士題簽」（神田香巖筆）
上　科註、下　經文
柱刻　「　第二五册　（板數）　（刻工）　」（糊代部分）
刻工　第一二紙　嚴志（他は糊つけのため判讀不能）
印記　「香巖／祕玩」朱長方印
「神田醇／子醇氏」朱方印（陰文）　「香巖三十／年精力所／聚經籍金／石書畫記」朱方印（陰文）
「神田／醇號／香巖」朱方印（陰文）
「佞古／書屋」朱方印
裏打補修改装
神田喜一郎氏寄贈圖書。石井積翠軒文庫（現藏未詳）の『科註

大方廣佛華嚴經』　巻第七至一〇、巻第五七、巻第五八　巻第六六至六八は同版と推定される。なお石井積翠軒文庫本には、解説によると、神護寺舊藏なる由の碓井小三郎の識語がある。

三五　大方廣圓覺修多羅了義經心鏡　殘一巻　存巻第四

折本　一帖　餘甲二一四

前住台州赤城山崇善敎寺釋智聡　述

南宋版

三二・八×一三・〇　全三六紙［第四紙後半四行闕及び尾闕］

一紙　三二・六（二六・三）×五一・三

二〇行一七字　小字雙行　毎半折五行　上下單邊

注低格一字　句點附刻

箱書

「宋槧本圓覺經心鏡巻第四／香巖居士珍藏」（神田香巖筆）

帙　題簽

「宋版大方廣圓覺經心鏡巻第四　香巖居士珍藏」

（神田香巖筆）

表紙　墨書

「大方廣圓覺修多羅了義經心鏡巻第四」

「第廿二□」

柱刻　「　四　（板數）　」

闕畫　玄、朗

印記　「高山寺」單郭朱長方印　「香巖／祕玩」朱長方印

「神田醇／子醇氏」朱方印（陰文）

「夕陽紅／半婁」朱長方印　「佞古／書屋」朱方印

神田喜一郎氏寄贈圖書。朱印記および表紙墨書によると、『高山寺聖敎目錄』の第二十二甲にある「同經［圓覺經］心經六巻」に該當するか。成簀堂文庫に、同書巻第一、六が存し高山寺舊藏とあることより、もと一俱のものと推定される。大字の寫刻體。

（寫眞④）

三六　佛果圜悟眞覺禪師心要　巻下

袋綴　一冊　餘甲二二四

嗣法　子文編

南宋・嘉熙二年（一二三八）刊本

四針眼訂　袋綴　二五・三×一七・二　改裝後補表紙

第四八、四九葉錯綴　第一五葉　補寫

匡郭内　一九・九×一四・七　左右雙邊　有界

毎半葉一一行二〇字

版心
「白口（文字數）　黑魚尾　心要下　（葉數）　（刻工）」
帙　題簽
「圜悟心要　上巻　皇朝曆應版／
下巻　嘉熙版／香巖居士珍藏」（神田香巖筆）
表紙　墨書　「圜悟心要　坤」
刻工　翁　有明　游昇　游　劉
刊記　［巻末三行］　嘉熙二年（一二三八）
天台比丘文侃謹用衣資重刊此板于徑山／化城接待院永遠流通
量収板頭錢専充本／院行堂同利不請移易嘉熙戊戌清明節題
關畫　廓
印記　「栗」墨丸印　「神田家藏」朱長方印
「香巖／祕玩」朱長方印　「神田醋印」朱方印（陰文）
「佞古／書屋」朱方印

神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』六三。上冊・曆應四年（一三四一）の臨川寺刊本、下冊・南宋嘉熙二年（一二三八）跋刊本をあわせて一本としており、宋版と五山版の比較の上でも興味深い。上下冊共に改装しており同筆で「圜悟心要　乾」「圜悟心要　坤」と外題を記している。蟲損が表紙本紙ともに貫きかつ外題をも侵していることより、比較的早くより宋版と臨川寺版があわされていたと思われる。「示胡尚書悟性勸善文」から「示華嚴居士」に至る六八項をおさめる。また巻末に「示無住道人」より「示宗覺大師」までの一三項を臨川寺版によると思われる補寫で合綴している。同版本に伊東淳祐氏藏本（重要文化財指定）、東洋文庫藏本がある。（ともに補寫有り）

三七　佛國禪師文殊指南圖讚　一巻

宋釋惟白述　　巻子　一巻　餘乙　九二

南宋・臨安府開經書舗賈官人宅刊
二八・一×六七二・〇　全一〇紙
一紙　二八・一（二四・七）×六七・八
六〇行二七字～二九字　有界　帯圖（五四圖）
序　［巻首一四行　張商英述］
中書舍人張商英述／華嚴性海納香水之百川法界／義天森寶光之萬像極佛陀之／眞智盡舍識之靈源故世主妙／嚴文殊結集龍宮誦出雞嶺傳／來繼踵流通普聞華夏季長者／合論四十軸觀國師疏鈔一百／巻龍樹尊者二十萬偈佛國禪／師五十四讚四家之

説學者所／宗若乃撮大經之要樞擧法界／之綱目標知識之儀相
述善財／之悟門人境交參事理俱顯則／意詳文簡其圖讚乎信受
奉行／爲之序引

刊記　一行　［序の後］
臨安府衆安橋南街東開經書鋪賈官人宅印造

印記　「高山寺／十無盡院」雙郭朱長方印　「香／巖」朱方印
「神田／醇印」朱方印（陰文）　「佞古／書屋」朱方印

跋文　宣統五年（一九一六）一〇月　［羅振玉撰　四行］
有宋刊刻書籍杭州推第一然今世所傳睦親坊陳氏刊本而已此賈
／官人宅刊文殊圖請尤精好則世所未知也香巖先生嗜古有鑒裁
／文庫所儲片儲隻字皆爲至寶此卷其一也丙辰十月上虞永豐／
鄉人羅振玉借觀題記以志眼福

神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』一七。華嚴經入法界品に説かれる善財童子の南遊求法を繪圖であらわし、これに讃を加えたもの。五十三善知識に、本書の讃の述者とされる佛國禪師惟白の圖像を加え五四圖とする。巻首に北宋の著名な政治家で佛教にも造詣が深い張商英（一〇四三～一一二一）の序を附す。日本には數本存するが中國には傳存せず、羅振玉によってこの神田喜一郎氏舊藏本（當時神田香巖藏）が『吉石盦叢書』初集（民國五年・一九一六刊）に影印で収められ、中國に紹介された。この影印本には以下の跋文が附される。

宋代刊板蜀最盛杭精南渡以後吾杭書籍鋪雕／板若陳道人鋪尹
家書籍鋪張官人宅文籍鋪可知者／寥寥此數家耳此書爲衆安橋
南街東開經書鋪賈官人／宅印造爲近人治板本學者所未知其雕
造畫象甚精我／國乃無傳本丙辰秋神田香巖翁出此見示予請附
影／印慨然許諾東京三浦將軍亦藏一本不獲借觀疑亦賈／官人
宅本也予往浴撰兩宋杭州雕本考苦前籍所記甚／略今得此書知
又有賈官人宅刊本且籍知宋世卷軸之／式雖漸廢而刊本有尚存
卷軸式者亦以前考板本諸家／所罕知者也影印既成爰書其後十
月九日永豐鄉人羅／振玉記于海東寓居之大雲書庫

同版本に武田科學振興財團杏雨書屋藏本（内藤湖南舊藏）、京都大學人文科學研究所（松本文三郎舊藏）、成簣堂文庫、天理圖書館藏本等が知られる。

三八　大方廣佛華嚴經合論　殘一巻　存巻第四七　折本　一帖　餘丙一五〇

唐太原方山長者李通玄　造論
唐福州開元寺沙門志寧釐　經合論

金・皇統九年（一一四九）太原候震等刊

三〇・九×一一・四　全二一紙

一紙　三〇・七（二四・二）×四七・九

二五行字詰不等　毎半折六行　上下單邊

帙　黄色布貼　題簽貼附

「大方廣佛華嚴經合論第四十七」（數字部分のみ墨書）

表紙　題簽貼附

「大方廣佛華嚴經合論第四十七」（數字部分のみ墨書）

柱刻　「　合　四十七　（板數）　」

（第一～七紙・第一二～二〇紙　二四行目と二五行目の間、第八～一一紙　一行目と二行目の間）

音釋　［巻末］三行

刊記

候饒男聚元習孫閏子一板

第一紙

郝瑋母段氏弟震顯亡父郝忠二板

第三紙

候權母于氏妻冀氏男咬住換德一板

第五紙

田鑿母郝氏弟信男世／外爲亡父田經刀一板

第六紙二行

太原府金相坊都維那郝震王旺緣化到榆次縣三敎北田村候震楊詮李照／糺集村衆各捨淨財命工刀經所集洪恩伏愿生身父母過見咸安／法界有情同登彼岸者矣智覺寺僧善進善恵共刀經一板／王榮母候氏弟王昌男乞僧姪男宅子千住一板田茂妻趙氏男宗秀宗萬一板／田闢妻趙氏男宗賢宗贇宗質一板田善亡父田仲一板埭皐妻孟氏半板／候的妻李氏男宗換爲亡父候顔一板邢忠母劉氏弟邢全亡邢金一板／田權妻候氏女夫候堯男外住半板候訓妻鞏氏男宜香亡父候智半板／田滿妻范氏男宗學宗震半板候定要福李準郭聚共一板／楊建妻候氏男楊準亡母鞏氏半板候宰母于氏男萬端萬萃陶氏半板／候白母張氏妻郝氏男萬儀孫男慶郎半板候効妻鞏氏男德充牧民半板／候演妻邢氏亡父候弁母李氏半板王皐妻單氏男旺喜亡父王海半板／郭的母郝氏妻田氏男福郎半板張通母楊氏妻張氏男馬住半板／李照妻王氏男世信世通生亨亡父李晟母范氏半板謝權母候氏弟滿喜亡父謝林半板／田朴母李氏弟宗祐元福爲亡父田甫半板／皆皇統歲次己巳重陽庚辰朔十五日甲午施板人候震楊詮候贇

巻末一五行

禿庵文庫（本學元學長大谷瑩誠氏舊藏）。元來は巻子本仕立で

印刷されたものを折本に仕立てたもの。宋の帝諱を缺き、俗字や簡略字を多く用いる。巻末の刊記によって、金皇統八年（一一四九）に山西太原府で開版されたことがわかる。この開版に際し、楡次縣三教北田村の候震・楊詮をはじめとして多數の村民が施財を行っている。『華嚴合論』は全一二〇巻であり、全體の施財人はかなりの數におよぶと思われる。この頃山西の平陽地方では民間の募緣によって刻された金版大藏經が開版されている。金版大藏經は一般に毎紙二三行一四字詰の巻子本であるが、中國撰述部分については毎紙二二行から三〇行、毎行一五字から二七字詰でまま折本であるという。また宋版金版等の華嚴關係の經典は往々他の經典と版式が異なることが多く、本經もまた變則的な版式である。金版はその遺例が少なく、しかもその大半は金版大藏經をはじめとして平陽地域の版本であり、太原で開版された本書は貴重なものと言えよう。（寫眞⑤）

三九　注妙法蓮華經　殘一巻　存巻第二　　折本　一帖　餘甲二一九

柯山金谿棲雲沙門　守倫　述

元・大德九年（一三〇五）謝士安跋陳一清刊本

二八・七×一一・〇　全二九紙

一紙　二八・七×（一三・九）×五三・七

大字　二〇行一五字　毎半折四行

小字　四〇行二〇字　毎半折八行

帙　題簽

「元槧注妙法蓮華經第二　戊申仲春／香巖題」（神田香巖筆）

表紙　墨書

「八架」　「注妙法蓮華經第二」

柱刻　「　注法華二　（板數）　」

刊記　［尾題後］

「實・婺（横書）／陳一清刊」

題記　大德九年（一三〇五）　［巻末一三行］

浙西道松江府華亭縣脩竹鄉四十二保伏字圍朱村居奉／佛天弟子謝士安同妻陳氏萬六娘與家眷等／情旨切念士安等叨居人世幸處中華賴／天地覆載之恩荷／父母生成之德無伸答報謹發誠心抽施中統鈔叁錠助刊／注妙法蓮華經板第二巻所集功德祝貢／諸佛龍天大權仙衆先祈／佛力保佑／父親謝千五提領母親鄒氏二娘各人身安壽永福集／灾消次用追薦／先丈人萬一提領陳公乘此良因超生／淨土者／太歲乙巳大德九年良月日謝士安謹題

印記　「洛東禪林／教寺藏院」墨長方印

「神田／醇印」朱長方印（陰文）　「神田家藏」朱長方印
「香巖／珍藏」朱方印　「佞古／書屋」朱方印
墨書　「西山／地藏／禪院／常住／不可／出佗／所也」
（巻首より半折に二字あて横書き）
「西山地藏院」　巻末

神田喜一郎氏寄贈圖書。本書の僚巻として、成簣堂文庫藏本（巻第三、七）、石井積翠軒舊藏本（巻第四）、大東急記念文庫藏本（巻第一一）、慶應義塾大學圖書館藏本（巻一二）、京都府立總合資料館藏本（巻第一四、一五）、龍谷大學藏本（巻第一六）、國立國會圖書館藏本（巻一八）等が知られる。（寫眞⑥）

四〇　大方廣圓覺修多羅了義經　折本　一帖　餘甲二一三

唐釋佛陀多羅　譯

元・至正一二年（一三五二）釋大延刊本
三〇・一×一一・一　全三八紙
一紙　三〇・一（二四・七）×三三・一
扉繪三〇・一（二四・七）×五五・三
二五行一七字　毎半折五行　上下單邊　有界

箱書　「趙松雪書圓覺經刻本　中峰和尚／香巖居士祕玩」
（裏）「宣統己未五月上虞羅振玉敬觀題記」
表紙　題簽（版）　「大方廣圓覺修多羅了義經」
版畫　首三折　扉繪（佛菩薩像）　巻末一折　毗沙門天繪像
柱刻　「　（板數）　」
序　裴休「大方廣圓覺了義經略疏序」　六一行
宗密「大方廣圓覺經略疏序」　五〇行
跋　趙孟頫　八行

三寶弟子趙孟頫謹手書／大方廣圓覺脩多羅了義經一部奉／大師中峯大和上尊者披閱所願聞此經者見此／經者誦此經者持此經者悉圓三觀頓除二障不／愆邪見得清淨覺出生殊勝功德奉爲妻魏國／夫人管氏道昇懺除業障早證菩提與法界／有情同成圓覺延祐柰年正月廿七日三寶弟子／翰林學士承旨榮祿大夫知制誥兼脩國史趙孟頫誌

中峰明本　一五行（字詰不等）

無法不備曰圓常寂而智覺斯一經發／明之大旨也昔如來入光明藏現受用身／與十二開士觀一切衆生本來成佛以二／障所纏未由證得於是標五性示三／觀闢二障了一心圓覺之義彰矣／翰林學士承　旨趙公謹發心奉爲／室魏國夫人管氏道昇手書是經施／入山中以薦生方命繡諸梓用廣流傳／願一切人圓佛果於見聞

信受之間了覺／因於讀誦悟明之域併斯勝利奉薦／夫人凡聖兩岐獨脱理事二障損空覺／海湛澄獲如意寶於驪龍淵底覺／天空闊全奮迅力於師子林中覺樹榮／而常覺之果惟熟惟圓覺觀明而滿／覺之場以安以住西天目山幻住沙門明本謹題

釋大延　八行

吳郡海雲禪寺拜大延化緣命工摠勒趙承旨手書／圓覺經一部板刊就完今開淨施名銜列之于后／比丘・智泉行泗善立法喜善隆善誠如瑛・永□□□善性如椿玄照智明自然（雙行）／善友馬善冀楊氏妙安蔣氏妙清故張氏道賢・顧善定趙氏妙眞趙氏妙清故杜氏妙秀故蔣浚（雙行）／如上功德先願是經盡未來際流通世間瞻禮誦持／自它利樂次願施財檀度見生者位大覺場而明／祖意茂粲覺華已謝者入圓覺海而汎慈航直／趨覺岸至正十二年十月吉日釋大延謹題

刊記　「平江陸宣郎印摺」　第三五紙二行目　尾題下

「錢唐趙伯川刊字并像」　趙孟頫跋の後

印記　「香巖／祕玩」朱長方印

「神田醰／子醰氏」朱方印（陰文）

「神田家藏」朱長方印　「佞古／書屋」朱方印

墨書　［巻末］

「文正元年十一月十八日傳領之早／遍照金剛□」

全巻にわたり　朱・墨書き入れ。

神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』二二。元代一流の文人で能書家として知られる趙孟頫が書寫し、當時もっとも著名な禪僧の一人であった中峯明本に獻呈したものを、元末になって中峯明本の跋ともども眞蹟そのままに模刻したもの。趙孟頫の自題によると、夫人の管道昇の菩提を弔うために書寫したものである。趙孟頫の松雪體といわれる流麗な書體や、明本の柳葉體とよばれる獨特の書體を忠實に覆刻しており、書道資料としても貴重である。ちなみに宮内庁書陵部には、同じく趙孟頫筆『金剛般若波羅蜜多經』（明・洪武八年杭州徐道圓刊）を藏する。宋・蘇軾筆『楞伽阿跋多羅寶經』（東禪寺版大藏經）等とともに名家の筆蹟をそのまま雕した寫刻本の代表作と言えよう。

四一　景德傳燈錄　三〇巻　　袋綴　八冊　餘甲二二二一

宋釋道原　輯

元・至正二五年（一三六五）慶元路太白山天童景德禪寺重刊本

四針眼訂　袋綴　二六・〇×一七・九

匡郭内　二一・五×一五・四　左右雙邊　有界

毎半葉　一三行二五字前後　小字雙行　字詰不等

表紙　茶褐色

版心　「線黑口（字數）　黑魚尾　（巻數）　黑魚尾（下向き）

（葉數）　線黑口　（刻工）」

印記　「三井家」朱長方印

「大正十／四年所／愛古槧」朱方印（陰文）

「寶玲文庫」單郭墨長方印　「佞古／書屋」朱方印

鼎形朱印及び雙郭朱丸印（印文不鮮明）

表紙題簽　「傳燈錄　一之四　一」　（以下同様）

「四巻寄六巻三巻／傳燈錄三十巻全部／寄二巻都合八

巻也」（第一册）

全巻にわたり朱・墨書き入れ。

第一册

楊億　「景德傳燈錄序」　二葉

西來年表　八葉

巻第一　一四葉、巻第二　一三葉、巻第三　一六葉

巻第四　二四葉

第二册

巻第五　二四葉、巻第六　一四葉、巻第七　一二葉

巻第八　一八葉

第三册

巻第九　二二葉、巻第一〇　一九葉

巻第一一　一八葉、巻第一二　二四葉

第四册

巻第一三　一九葉、巻第一四　二〇葉

巻第一五　二〇葉、巻第一六　一九葉

第五册

巻第一七　二四葉、巻第一八　二二葉

巻第一九　一八葉、巻第二〇　二四葉

第六册

巻第二一　二三葉、巻第二二　一九葉

巻第二三　二四葉

第七册

巻第二四　二五葉、巻第二五　二七葉

巻第二六　二九葉

第八册

巻第二七　一九葉、巻第二八　二六葉

巻第二九　一九葉、巻第三〇　一八葉

楊億書及び語錄［天聖廣燈錄巻第一八］

劉棐序　「景德傳燈錄後序」［紹興四年］　四葉

鄭昂跋　「跋」［紹興二年］

天童宏智疏　「疏」

無慍　「疏」

無慍　「太白山天童禪寺重刊景德傳燈錄化緣疏」

大道無形非五眼之所見至言絶響宜二聽之能聞然則無聞／而聞以顯眞聞必也非見而見以彰正見須憑大聖之垂誘始／達祕域之通津靈鷲拈花宗趣的傳敎多少林面壁旨要尅證／機先不越東土西乾寧間南能北秀燈燈相續法法圓融厥後／雖派別五家到底而理歸一致虎鬚倒埒贈掌黃檗腮邊擧手／相交通信大愚肋下有照有用全主全賓想生相生流注生巳／除意路塵說刹說熾然說不動舌頭圓相正好呈來木枕何坊／推出名標五位高超上古風規鋸舞三臺月落今時節拍玉轉／珠回三句語鐵壁銀山一宇關曲示鑑咦且許傍人抽顧直酬／祖意未容開口言師心中安石著甚來由虎領解鈴果然奇特／歷歷隨機應化區區爲物行權宿霧散而朝陽升衆星滅而孤／月朗不即文字不離文字會者方知毋棄語言毋滯語言悟時／自徹印板屢經焚毀話頭只是如常一翻拈起一翻新孰日不／可河裏失錢河裏撈我固當然必遇知音共圓此話／台州黃巖瑞巖禪寺住持嗣祖比丘無慍撰

刊記

至正乙巳比丘寶生募緣重刊／板留太白名山祇桓精舍流通

［雙郭二行木記］

卷第一、卷第二、卷第三、卷第四、卷第五
卷第六、卷第八、卷第九、卷第一〇、卷第一一
卷第一二、卷第一三、卷第一四、卷第一五
卷第一六、卷第二〇、卷第二一、卷第二二
卷第二三、卷第二四、卷第二五
卷第二六、卷第二七、卷第二八
卷第二九末

至正乙巳比丘寶生募緣／刊於太白山祇桓庵流通

［雙郭二行木記］

卷第一七末

慶元路太白山天童景德禪寺住持嗣祖比丘元良施錢伍伯貫

卷第一末

慶元路大慈禪寺住持比丘宗迪施財刊此一卷

卷第七末、卷第八末、卷第九末

應夢名山雪竇禪寺住持比丘永懷助錢參伯貫文

卷第一〇末

慶元路天寧禪寺住持比丘若信助錢陸拾貫

卷第一一末

昌國州吉祥禪寺住持比丘德奇施錢刊此一卷

卷第一二末

慶元路前天寧禪寺住持比丘唯一助錢貳拾貫文

卷第一三末

台州路天寧禪寺住持比丘廣慧助錢壹伯貫文

卷第一四末

曇鑰從訓慧雲志宏法地如玉元厚常在進吉祥各助錢伍貫

卷第一四末

雲表性訓守湛有蘊義松無所克昌無辨文英／大用普慈道資無二蒙潤德宗厚本無染如璧壽智寶諸一正德麟／寶旭寶鑑道洪大全大振起全祖梁行徽道寂一眞法東／宜勉嗣曇一唯文英心閑心拱文韜行原起軒景嵩道損／前天河比丘無異比丘玄軫

卷第一四末五行

大梅山保福禪寺住寺比丘智昌助錢貳伯伍拾貫文

卷第一五末

仁壽妙淨法舟居選祖杲如鈔雲軒各助錢壹拾貫／守禮恵觀智巖本覺本歸希祖子賢文卣／比丘道謙宗鄞普等文奎／寂住比丘清藪法喜比丘誠巳吉祥比丘正化九峰比丘智芳

卷第一五末四行

寶陀比丘師睿回峰比丘自勉／仗錫比丘彌安梨洲比丘可興／定水比丘來復佛隴比丘行丕／白雲比丘智珠／安隱比丘景雲／普慈比丘慕聯護聖比丘志聯各助錢伍拾貫文

卷第二〇末六行

清涼比丘太虛穀貳石

卷第二一末

比丘道隆助錢壹拾貫文

卷第二三末

比丘曇靜持節各刊字壹仟伍百箇比丘尼淨圓助錢壹拾貫文／五磊比丘大徹助錢貳拾伍貫比丘慶祿助錢兄拾兩／天王比丘大昕比丘正勤士森各助錢壹拾伍貫文

卷第二五末三行

比丘如凱文亨一濟各助錢壹貫伍錢／比丘曇鈔正勗子猷各助錢貳貫文／比丘大易助伍貫比丘道隆助壹貫

卷第二六末三行

東山比丘文俊安巖比丘德璋／禪寂比丘慧煦白雲比丘宗昊／雲頂比丘行滿栖眞比丘普聞／崇果比丘本中比丘惟敬淨瑒雲岑文美／天錫正玄子韶文寶一聞光志介祉／正宗志忻信士沈文中各助錢貳拾伍貫文

卷第二七末六行

各助錢貳拾伍貫文／惟謙曇鎧景祚志省／雲澹普上法奧行淨明宗道凝可永清歷心印／仁沐永祿如玠宗古思賢曇苑戒纓文秩文膺／前温州太平比丘法興比丘性常文咨義如子璿可儔

卷第二八末五行

應夢名山雪竇禪寺住持比丘元達元達二十五兩

卷第二八末

衍慶比丘天用助錢伍拾貫文比丘宗謙助錢拾貫清汴助伍貫

卷第二九末

雪竇資聖禪寺住持比丘原達助錢伍拾兩／前天台山國清禪寺住持比丘元勖助錢壹定

卷第二九末二行

比丘祖杲心拱無異點對／比丘寶生募緣／慶元路太白名山天童景德禪寺住持嗣祖比丘元良勸緣

卷第三〇末三行

刻工　王允元　蔣子寧　張繼道　公舉　國祥　王　王景輝

墨書　「一（　～八）」　下小口

「什物／三州國之」　每册第一、第二葉表上欄外

「三州暾叟（花押）」［毎冊巻末］

神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』一三。元至正二十五年（一三六五）太白山天童景德禪寺の寶生が財を募り、延祐三年（一三一六）湖州道場禪幽庵刊本を覆刻したもの。各巻末にはのべ一七六人にのぼる多數の施財者を列擧する刊記があり、元末の中國禪宗史の一資料として知られる。從來至正刊本については、大東急記念文庫藏本によって研究が行われてきたが、同本には若干の補鈔があり、かつ書中に散見する施財記も印出されていない箇所があるなど完全なものではない。これに對し版木に一部斷裂があるものの概ね印刷狀態は良く、闕葉もなく施財記も全て印出されている本學藏本は、該書の研究の好資料となろう。至正刊本はさきに述べたように、延祐刊本を覆刻したものであるが、延祐刊本にある希渭の重刊の狀を省き代わりに無慍の疏を加えている。また延祐刊本巻末の天童宏智の疏の第一六行目には八字分の墨釘があり、疏の末尾に小字雙行で「此疏缺八字不敢妄自添入好古／博雅君子或有善本望見示以補之」と刻された部分が、至正刊本では「平生快活應接磨龂」と刻されているなど全くそのまま覆刻したものではなく、覆刻の際に一部校訂を加えたものと思われ、今後の詳しい調査を課題としたい。

四二　圜悟禪師語錄　一〇巻　　袋綴　四冊　餘甲二二九

宋釋紹隆等　輯

元・大德二年（一二九八）釋普南　杭州刊本

四針眼訂　袋綴　二五・八×一七・三　紺色後補表紙

匡郭内　二〇・六×一二・八　四周雙邊　有界

序　六行一一字　／　本文　一二行二五字

第一冊　七七葉　第二冊　六九葉［第四九葉補寫］

第三冊　六九葉　第四冊　五七葉

版心

「白口　黑魚尾　○篇名（葉數）　黑魚尾　（刻工）」

題簽「圜悟禪師語錄　篇名（萬壽　夾山等）」

刊記一〇行

大元國思州／勅賜護國大華嚴寺華嚴講主洪濟圓明大師沙門普南欽奉／皇帝聖旨／皇太后懿旨就杭州南山寺印造大藏經因便結般若緣捨財命土重刊／佛果圜悟禪師語錄板一部印施一千部以此勝因祝延／皇帝萬歲太子千秋／后妃天眷共享遐齡文武官僚長居祿位置板於成都府昭覺寺永遠流通非特使／此錄光明盛大輝映千古抑亦爲參學者之龜鑑焉即自利利他之意也／大德戊戌孟冬望日謹施／幹緣勾當徒弟宗德宗通

巻第一冊「圜悟禪師語錄序」（第八葉）の後
及び第四冊第五二葉

大德戊戌孟冬望日思州華嚴寺住持沙門普南捨財幷鋟梓永遠流通

第一冊第七七葉、第二冊第六九葉、第四冊第五〇葉

刻工　何通　何垕　建

印記

「九字號語錄一部奉施／餘杭縣・圓通接待（雙行）志清」
雙廓朱長方印（傍點墨書）
［第一冊第八葉　耿延禧序の後］
「香巖／祕玩」朱長方印　「神田／醇印」朱方印（陰文）
「神田醇／子醇氏」朱方印（陰文）　「香／巖」朱方印
「香巖／珍藏」朱方印　「神田／信醇」朱方印（陰文）
「神醇／之印」朱方印（陰文）　「佞古／書屋」朱方印

墨書

「大仙常住」

第一冊

張浚序［紹興四年二月］（版心記　「二巻後序」）　三葉
達磨眞性頌
耿延禧序「圜悟禪師語錄序」［紹興三年一二月二〇日］　五葉
（版心記　「耿序」）
圜悟禪師住成都府崇寧萬壽禪寺語錄
（版心記　［昭一］）　一七葉
張沔「成都府崇寧萬壽禪寺圜悟和尚語錄序」
（版心記　「一巻後序」）　三葉
佛果圜悟禪師法系圖及び頂相
圜悟禪師住夾山語錄　（版心記　［夾二］）　一葉
圜悟禪師住道林語錄　（版心記　［道三］）　九葉
馮檝「圜悟禪師語錄後序」［紹興六年一一月］　二葉
（版心記　「四巻□□」）
圜悟禪師住建康府蔣山語錄
（版心記　［蔣四］）　一二葉
圜悟禪師住東京天寧寺語錄
（版心記　［天五］）　一六葉

第二冊

圜悟禪師住金山龍游語錄　（版心記　［金六］）　七葉
韓駒「圜悟禪師雲居語錄序」［建炎四年七月］　三葉
（版心記　「二巻前序」）

圜悟禪師住南康軍雲居眞如禪院語錄　二〇葉
（版心記　［雲七］）
蔣璨「圜悟禪師雲居普説法語序」［紹興五年六月］　四葉
（版心記　［三巻後序］）
圜悟禪師法語　三五葉
（版心記　［語八］）

第三冊

鄭績「圜悟禪師小參普説序」［紹興五年閏二月］　二葉
（版心記　「三巻前序」）
圜悟禪師住成都府天寧寺小參　七葉
（版心記　［小九］）
圜悟禪師住夾山寺小參　五葉
圜悟禪師住道林寺小參　六葉
圜悟禪師住蔣山小參　一五葉
圜悟禪師住東京天寧寺小參　一〇葉
圜悟禪師住金山龍游寺小參　三葉
圜悟禪師住雲居山小參　六葉
圜悟禪師告香普説　一五葉

第四冊

圜悟禪師頌古　二〇葉
（版心記　［古十］）
佛果圜悟禪師拈古　二五葉
佛果圜悟禪師眞贊　一二葉

神田喜一郎氏寄贈圖書。『神田喜一郎博士寄贈圖書善本書影』一九。『圜悟禪師語錄』は、京都東福寺に宋版が二部存するが（重要文化財指定）、本書は現存が確認できる唯一の元版であり、該本の研究の好資料となる。成簣堂文庫藏應永一一年（一四〇四）臨川寺刊本は、元刊本の覆刻で一〇巻本であるが、版式・内容ともにやや異なる。刊記によると大德二年（一一九八）に思州華嚴寺の普南が、杭州南山寺において藏經を印造した際、私財を投じてこの『圜悟禪師語錄』一千部を印施したとある。この版木は圜悟克勤の初住の寺である四川成都の昭覺寺に置いたという。第一冊第八葉にある朱印記によって、この本が杭州餘杭縣の圓通接待院に施入されたものであることがわかる。版心記によると、元來の配列順は現在のものと異なっていたことが知られる。巻第二のまえに圜悟克勤を中央に、右に大慧宋杲、左に虎丘紹隆を配した頂相がえがかれており、元代佛教版畫ことに禪宗祖師像の代表作としても知られる。

法苑珠林卷第九十四 四內處部 處之二

大唐上都西明寺沙門釋道世宣妙懷

感應緣 略引一十四驗

穢濁篇第九十四

漢洛子淵 晉沙門法遇

晉庾紹之 宋蔣小德

宋沙門竺惠熾 吳諸葛恪

周武帝 隋趙文若

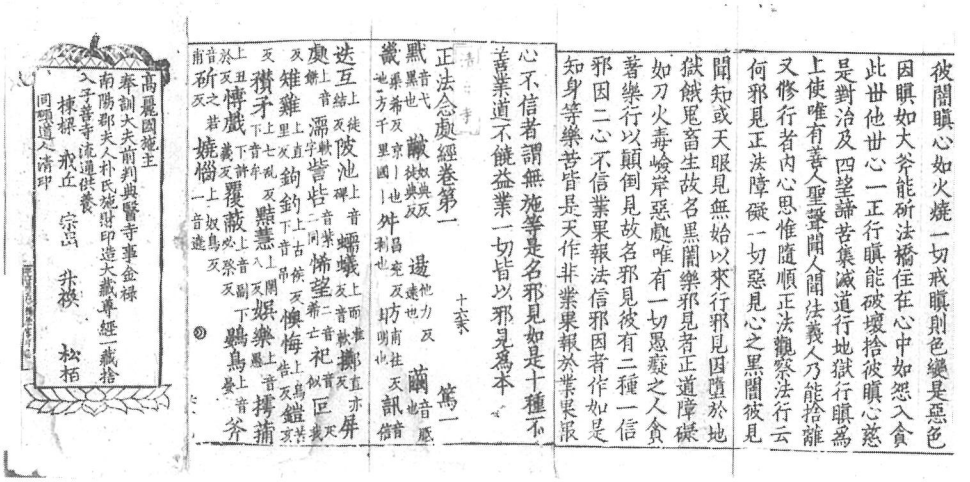
唐孫迴璞 唐李氏

唐鄭師辯 唐韋知十

唐謝氏 唐任五娘

漢孝昌時有虎賁洛子淵者自云洛陽人孝昌中式於彭城其同管人樊元寶得還洛京師子淵附書一封令至云宅在靈臺寺法雅水部直皮家人自出相看元寶如其言至

① 宋・思溪版法苑珠林



彼闇瞋心如火燒一切戒瞋則色變是惡色因瞋如大斧能斫法橋住在心中如怨入貪此世他世心一正行瞋能破壞捨彼瞋心慈是對治及四望諦苦集滅道行地獄行瞋爲上使唯有善人聖聲聞人聞法義人乃能捨離又修行者內心思惟隨順正法觀察法行云何邪見正法障礙一切惡見心之黑闇彼見聞知或天眼見無始以來行邪見因墮於地獄餓鬼畜生故名黑闇樂邪見者正道障礙如刀火毒嶮岸惡處唯有一切愚癡之人貪著樂行以顛倒見故名邪見彼有二種一信邪因二心不信業果報法信邪因者作如是知身等樂苦皆是天作非業果報於業果報心不信者謂無施等是名邪見如是十種不善業道不饒益業一切皆以邪見爲本

正法念處經卷第一 十六案 篤一

黑音弋黑也 黶如典反遠也 遏他力反 繭音感 畿果希反也一方千里國 舛昌兗反京丨也 坊甫往反明也 訓倩

迭互上徒結反 陂池上音禪 蟻上音紫 擲直亦反 屏廁上音 溺奴音反 訾呰二同字 怖望希亡音反 祀似音 巨求反 雉雞上直里反 鉤釣上古侯反下音吊 禮上七禮反 黠慧上閑八反 懊悔上烏告反 鎧苦亥反 攢矛下音牟 傳戲下許宜反 覆蔽上音副下義反 娛樂上音愚 撈捕上丑音結反 斫之若音甫反 嬈惱上奴鳥反一音遶 鵝鳥上音晏 斧

高麗國施主
奉訓大夫前判典醫寺事金祿
南陽郡夫人朴氏施財印造大藏尊經一藏捨入于善寺流通供養
棟梁 永丘 宗呂 井模 松栢
同願道人 清印

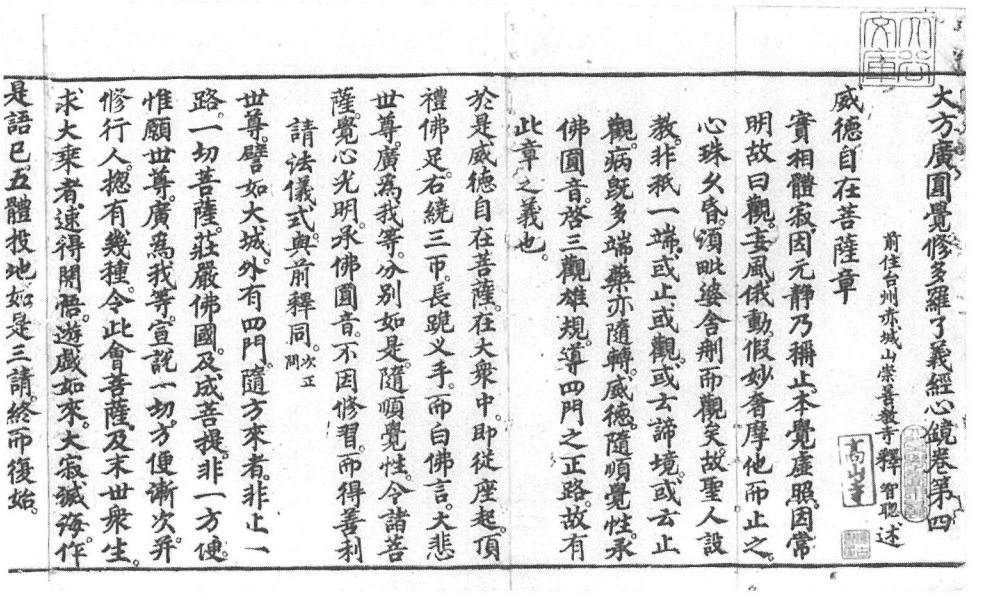
② 元・磧砂版正法念處經

注仁王護國般若經卷第一 并序

大宋國傳賢首祖教沙門 淨源 撰集

夫儒典之述誠明猶釋教之談寂照焉
彼以聖人自誠而明類妙覺即寂而照
矣賢者自明而誠比等覺即照而寂歟
斯皆爲教不同而同歸乎善者也矧茲
聖誥雖控禦三乘而優遊中道是故仁
王勤請袪七難以安民至聖垂慈敷百
座而護國恢五忍則祚升覺帝其唯寂
照乎歷十地則位登聖王其唯誠明乎
昔人不究儒釋垂範大同而小異多以
三學之文治乎心謂之域外教矣六經
之訓治乎身謂之域內教矣由是寂照
誠明之緼前代未聽耳唯大廣智不空
三藏學究二諦教傳三密通月邦之寂
照同中華之寂月唯交半譯蜀學士奥

③　宋版・注仁王護國般若經



大方廣圓覺修多羅了義經心鏡卷第四

前住台州赤城山崇善教寺 釋智聰 述

威德自在菩薩章

實相體寂因元靜乃稱止本覺虛照因常
明故曰觀妄風俄動假妙者厚他而止之
心珠久昏須毗婆舍摩而觀之故聖人設
教非祇一端或止或觀或云諦境或云止
觀病既多端藥亦隨轉威德隨順覺性承
佛圓音啓三觀雄規導四門之正路故有
此章之義也

於是威德自在菩薩在大衆中即從座起頂
禮佛足右繞三帀長跪叉手而白佛言大悲
世尊廣爲我等分別如是隨順覺性令諸菩
薩覺心光明承佛圓音不因修習而得善利

請法儀式與前釋同次正問

世尊譬如大城外有四門隨方來者非止一
路一切菩薩莊嚴佛國及成菩提非一方便
惟願世尊廣爲我等宣說一切方便漸次并
修行人揔有幾種令此會菩薩及末世衆生
求大乘者速得開悟遊戲如來大寂滅海作
是語已五體投地如是三請終而復始

④　宋版・大方廣圓覺修多羅了義經心鏡

大方廣佛華嚴經合論卷第四十七

太原府金相坊都維那郝震王旺緣化到榆次縣三教鄉北羽村侯震楊詮李照
紙作村衆各捨淨財命工刊經所集洪恩　伏願生身父母過見感安
法界有情同登彼岸者矣　智覺李僧喜進善惠共刊經一板
王崇母侯氏弟王喜男乞僧姪男定子千住板　田閏妻趙氏男崇貴　宗質　一板
侯的妻李氏男宗獲　為亡父侯顏　一板　田妙妻侯氏女天侯先男外住　半板
田滿妻范氏男宗李　宗震　半板　楊建妻侯氏男楊準王母韋氏　半板
侯自張氏妻郝氏男方儀孫男慶郎半板　侯演妻郝氏亡父侯弁母李氏　半板
郝伯母閻氏妻田氏男福郎　半板　李照妻呈氏男世隆世通世亨亡父李嘉榮范氏半板
田村母李氏弟宗裕元福為亡父田甫半板　趙道母楊氏妻張氏男馬住　半板
田村母李氏弟宗裕元福為亡父田甫半板　謝福母侯氏弟福喜亡父謝林半板
當皇統戊申歲次己酉陽月庚辰朔十五日甲午　施板人侯震楊詮侯貴

狐狼上音胡下音郎狩也　**晡**升龍反申五鐵圓也亦作晡　**縵**莫半反網一羅覆也　**囘**而振反七尺為之一　**繞**

昨哉反始也　**罄**苦定反盡也　**莅**力致反臨也　**恪**苦各反敬也　**技藝**奇綺反下魚祭反才能也　**寬宥**

苦官反下尤赦反寬也　**怡**与之反　**匱**求位反乏也　**繼**古詣反紹一也

72866
150

⑤　金版・大方廣佛華嚴經合論

注妙法蓮華經卷第二　沿東禪林

柯山金谿接雲沙門釋　中論述

次釋菩薩衆文分六初明數三顯位四數德五列名六總結

菩薩摩訶薩八萬人皆於阿耨多羅三

西　山　地　藏　禪　院　常　住　不

藐三菩提不退轉若具存應言菩提薩埵訶薩埵什師嫌繁所以略去提埵二字也菩提此云道薩埵此云心摩訶此云大此諸人等皆求廣博大道又能成熟衆生即是大道心之氣類也此明類竟○八萬人者然餘經集衆甚多此經何少或是語其大數耳或譬王論密事豈可率土同謀若約觀心釋者觀一善心具十法界十界交互具百法界千性相等十善即十心約八正道即八萬法門也此示數竟○阿耨多羅者出示相上三藐三菩提云覺不退轉者約位行念以論之也若詳而釋之應歷四教各有三一一不同今釋此經但論圓教位行念也此如華嚴明初住得如來一身無量身具三不退此是實事即圓教之不退也然此不退轉者意兼兩句今為調文且從上釋應以此句貫通下文觀者宜悉之耳此明顯位竟○四數德皆得陁羅尼樂說辯才轉不退轉法輪供養無量百千諸佛於諸佛所植衆德本常為諸佛之所稱歎以慈修身善入佛慧通達大智到於彼岸名稱普聞無量世界能度無數百千衆生橫竪二意以消之一竪約十地義便二橫約初住義便也且如不退轉一句而含於兩義也何則若成前即是顯位義也向後即成數德耳所以將此對于初地者良以初地名歡喜以喜其不退墮二邊入于中道獲三不退故知是數初地也皆得陁羅尼者數第二離垢地也此地亦名離塵所謂離諸惡達持衆善即是陁羅尼義也樂說辯才者數第三明地也良以內智既明外說則辯所謂欲知智在說也轉不退轉法輪者

數寺藏本

⑥　元版・注妙法蓮華經